

川崎市総合計画第1期実施計画 政策体系図

基本政策	政策	施策	事務事業(○は本計画に掲載している主な事務事業)
	政策 4-8 スポーツ・文化芸術を振興する	施策 4-8-1 スポーツのまちづくりの推進	
		○ 市民スポーツ推進事業	
		○ 地域スポーツ推進事業	
		○ 競技スポーツ大会開催・支援事業	
		○ ホームタウンスポーツ推進事業	
		○ スポーツセンター等管理運営事業	
		○ スポーツ・文化総合センター整備・運営事業	
		○ 東京オリンピック・パラリンピック推進事業	
		施策 4-8-2 市民の文化芸術活動の振興	
		○ 市民文化活動支援事業	
		○ 文化財保護・活用事業	
		○ 東海道かわさき宿交流館管理運営事業	
		○ 市民ミュージアム管理運営事業	
		○ 大山街道ふるさと館管理運営事業	
		○ 市民プラザ管理運営事業	
		○ 橘樹官衙遺跡群保存整備・活用事業	
		○ 藤子・F・不二雄ミュージアム事業	
		○ 岡本太郎美術館管理運営事業	
		○ 日本民家園管理運営事業	
		○ 青少年科学館管理運営事業	
		○ アートセンター管理運営事業	
施策 4-8-3 音楽や映像のまちづくりの推進			
○ 音楽のまちづくり推進事業			
○ 川崎シンフォニーホール管理運営事業			
○ 映像のまち・かわさき推進事業			

施策評価シート(第1期実施計画 総括評価)

1 施策の概要					
政策体系上の位置づけ	基本政策(1層)	活力と魅力あふれる力強い都市づくり			
	政策(2層)	スポーツ・文化芸術を振興する	計画当初値(H27年)	直近実績値(H29年)	最終目標値(H37年)
	市民実感指標	① スポーツの盛んなまちだと思ふ市民の割合 ② 文化・芸術活動の盛んなまちだと思ふ市民の割合	47.6%	55.1%	55.0%
施策(3層)	施策コード	施策名			
	40801000	スポーツのまちづくりの推進			
担当	組織コード	所属名			
	257000	市民文化局市民スポーツ室			
関係課	市民文化局市民生活部企画課、市民文化局オリンピック・パラリンピック推進室				
施策の概要	<p>●健康志向が高まる中、スポーツを身近に感じ、生涯にわたってスポーツを元気に楽しめるよう、スポーツに参加する機会を促進するとともに、スポーツを通して仲間とふれあい、地域での交流や健康づくりが楽しめるよう、地域のスポーツ活動や総合型地域スポーツクラブの設立・育成を支援します。</p> <p>●国際大会等の開催や競技スポーツ活動への支援を通じ、トップアスリートのプレーを間近に観ることで、市民が感動と興奮を感じ、自らもスポーツをはじめるとのきっかけづくりにつなげるとともに、川崎で活躍するトップチーム・トップアスリートと連携しながら、スポーツを通して市民が川崎の魅力を楽しむことのできるスポーツのまちづくりを進めます。</p> <p>●東京2020オリンピック・パラリンピックは、本市の「まちづくり」「ひとづくり」「都市の魅力向上」などを進める絶好の機会です。大会の開催に向け、オリンピック・パラリンピック競技種目の認知度を向上するためのイベント開催等による機運の醸成やボランティアの養成、内外からの来訪者に対応したおもてなしの取組などさまざまな準備を進めます。また、この大会への取組を通じて、市民がスポーツを身近に感じられるよう、誰もが楽しむことのできるスポーツの普及促進により、市民の健康づくりを進めます。</p>				
直接目標	スポーツを身近に感じ、楽しむ市民を増やす				

2 成果指標やその他成果などの状況と成果の分析							
実施計画に位置付けた指標名(指標の説明)			現状値(年度)	目標・実績	H28年度	H29年度	単位等
成果指標	1	週1回以上のスポーツ実施率	34.8	目標値① 実績値②	35.6 42.9	36 40.6	%
		指標の説明 市民アンケート(無作為抽出3,000人)の週1回以上スポーツをする人の割合	H27	達成率(②/①) 指標達成度※1	120.5% a	112.8% a	↑ 増減
	2	年1回以上の直接観戦率	30.4	目標値① 実績値②	30.8 29.8	31 26.1	%
		指標の説明 市民アンケート(無作為抽出3,000人)の年1回以上スポーツの観戦をする人の割合	H27	達成率(②/①) 指標達成度※1	96.8% c	84.2% c	↑ 増減
3	スポーツを支える活動に年1回以上参加した人の割合	5.7	目標値① 実績値②	5.9 4.2	6 3.5	%	
	指標の説明 市民アンケート(無作為抽出3,000人)の年1回以上参加した人の割合	H27	達成率(②/①) 指標達成度※1	71.2% c	58.3% d	↑ 増減	
4	スポーツセンター等施設利用者数	261.8	目標値① 実績値②	246.5 259.9	263 281	万人	
	指標の説明 スポーツセンター等施設(8か所)における利用者数の実績報告の合計値	H26	達成率(②/①) 指標達成度※1	105.4% a	106.8% a	↑ 増減	
数値で把握できる補足指標(指標の説明)			実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	指標の説明	かわさきスポーツパートナーによる市民招待の実施	実績	688	779	1,817	人
		市民大会等各種スポーツ大会の開催	実績	53	53	53	回
定性的な成果 (取組を進めたことで発現した数値では測れない効果などについて記載)		<p>●かわさきスポーツパートナーが各リーグ戦や日本選手権大会などで好成績を上げたことにより、メディアに多く取り上げられ、平成29年の川崎市10大ニュースにおいては、川崎フロンターレ関係のニュースが3位(J1リーグ戦で初優勝 自由意見のみ)と6位(YBCルヴァンカップ準優勝)、川崎プレイサundersのB1リーグ初年度に準優勝が9位に選ばれるなど、市民がスポーツを身近に感じることができ環境づくりに成果がありました。</p>					
指標等の成果分析 (指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載)		<p>●スポーツ観戦率については、平成28年度は川崎フロンターレや川崎プレイサundersの年間を通じた好成績、リオ五輪開催により、Jリーグホームゲームやゴールデングランプリ陸上の観客動員数は好調(対前年増)であったにもかかわらず、平成29年6月実施のアンケート結果は対前年微減となりました。年代別では、若い人ほど直接観戦が高い傾向にありますが、本市ではスポーツに関心があり観戦にまで行く層がまだまだ限られていて無作為抽出の有意な変化が出るほどの広がりが少ないからと考えます。</p> <p>●スポーツを支える活動に年1回以上参加した人の割合について、具体的に取り組んでいる活動としては、スポーツ大会やイベント、運動会の設営、運営などの支援の回答が見受けられます。消極的(活動を知っているが、活動に参加したことはない)の中で多い回答として、参加の機会がない、情報がない、などの回答が多くなっています。</p>					

※1 指標達成度の目安【a. 目標値以上(100%以上)、b. 現状値以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～現状値未満、d. 目標達成率60%未満】

※2 指標達成度の目安【a. 目標値以上(100%以上)、b. 個別設定値(「指標の説明」欄に記載)以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～個別設定値未満、d. 目標達成率60%未満】

3 施策を構成する主な事務事業の評価									
番号	事務事業コード 事務事業名	サービ ス分類	事務事業の概要 (簡潔に記載)	主な取組の実績	事業費(千円)		事業の 達成度	施策へ の貢献 度	今後の 事業の 方向性
					予算額	決算額			
					H27年度				
					H28年度				
					H29年度(※決算額は見込)				
1	40801010	参加・協 働の場	市民がスポーツに参加する機会を増やし、 元気に楽しめる環境づくりを進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ●市民大会等各種スポーツ大会の開催(市民大会 53回) ●市内の企業等の所有するスポーツ施設の開放事業の実施 ●スポーツ関係団体等と協働・連携したスポーツ活動への市民の参加促進(川崎市スポーツ協会・川崎市障害者スポーツ協会・川崎市レクリエーション連盟) ●スポーツ推進計画の改定 ●障害のあるなしに関わらず、地域でスポーツが楽しめるよう、障害者スポーツ大会の開催やスポーツ教室、障害者スポーツ体験講座などを実施 	19,007	18,622	3	A 貢献して いる	II 改善しな がら継続
	市民スポーツ推進事 業				18,360	18,086			
					75,420	68,654			
2	40801020	参加・協 働の場	スポーツを通し仲間とふれあい、地域での 交流が楽しめるよう、地域活動の支援や 総合型地域スポーツクラブの育成を支援 します。	<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツ推進委員による地域スポーツ活動の支援 ●同じ地域の住民が会員となって自主的に運営する総合型地 域スポーツクラブの活動・設立支援 	13,597	13,071	3	A 貢献して いる	II 改善しな がら継続
	地域スポーツ推進事 業				12,902	12,185			
					13,263	12,818			
3	40801030	イベント 等	国際大会等の開催や競技スポーツ活動の 支援を通じ、市民がスポーツを観る、支 える楽しみを感じ、自らもスポーツに参加 する取組を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ●国際陸上競技大会「ゴールデングランプリ陸上川崎大会」の 開催(入場者数15,200人) ●川崎国際多摩川マラソンの開催(参加者数6,569人) ●多摩川リバーサイド駅伝の開催(参加者数6,539人) ●国際トランポリンジャンプオープン開催 	66,619	66,356	2	A 貢献して いる	II 改善しな がら継続
	競技スポーツ大会開 催・支援事業				63,019	62,267			
					67,035	66,435			
4	40801040	参加・協 働の場	本市をホームタウンとして活躍するトップ チームやトップアスリートをかかわきスポ ーツパートナーに認定するなど、多様な主体 と協働・連携しながらスポーツを通して本 市の魅力・活力を高めるまちづくりを進め ます。	<ul style="list-style-type: none"> ●かわさきスポーツパートナー等による、ふれあいスポーツ教室 等の開催(34回) ●かわさきスポーツパートナー等の各試合への市民招待の実施 (1,817人) 	36,058	35,380	3	A 貢献して いる	I 現状のま ま継続
	ホームタウンスポーツ 推進事業				39,642	36,238			
					37,177	44,550			
5	40801050	施設の管 理・運営	市民の心身の健全な発達やスポーツの普 及に向け、スポーツセンター等の運営を通 じて、身近な場所でスポーツに親しめる環 境づくりに取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツセンター等の体育室・トレーニング室などの利用提供 の推進 ●生涯スポーツの推進に向けたスポーツ教室及びイベント等の 実施 ●施設の長寿命化に向けた修繕計画に基づく工事 ●屋内スポーツ施設のバリアフリー化の推進 (とどろきアリーナ、高津スポーツセンター、市武道館) 	736,223	726,080	3	A 貢献して いる	I 現状のま ま継続
	スポーツセンター等管 理運営事業				907,454	799,614			
					619,996	608,429			
6	40801060	施設の管 理・運営	富士見公園の整備に合わせ、都心にふさ わしいスポーツ・文化・レクリエーション活 動の拠点機能の強化を図るため、スポ ーツ・文化総合センターの整備を推進しま す。	<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツ・文化総合センターの完成 ●平成29年10月から供用開始 	8,984	7,329	3	A 貢献して いる	II 改善しな がら継続
	スポーツ・文化総合セ ンター整備・運営事業				6,467	6,272			
					14,058,035	14,192,529			
7	40801070	その他	東京2020オリンピック・パラリンピックの 開催に向けて、大会運営支援をはじめ、大 会を契機として本市への愛着を育み、誰 もが暮らしやすいまちづくりにつながる「か わさきパラムーブメント」の取組を推進しま す。	<ul style="list-style-type: none"> ●第1期かわさきパラムーブメント推進ビジョンに基づく取組の推 進と第2期ビジョンの策定 ●JOC/パートナー都市協定に基づく取組の推進(環境セミナー、 オリンピック教室(2回)の開催) ●事前キャンプの受け入れに向けた取組の推進 ●「かわさきパラムーブメント推進フォーラム」の運営と多様な主 体の連携によるプロジェクトの企画実施 (推進フォーラム3回、市内飲食店のバリアフリー調査やセミナー 開催) ●大会開催とその後のまちづくりに向けた多言語対応などさま ざまな分野における取組の調整 	3,000	4,030	3	A 貢献して いる	III 事業規模 拡大
	東京オリンピック・パラ リンピック推進事業				50,000	43,080			
					59,809	57,714			
8									

4 施策の達成状況			
施策の 達成状況 (指標等の成果を中 心に施策を構成す る事務事業の評価 等から総合的に評 価)	区分	選択区分	達成状況区分を選択した理由
		A. 順調に推移した (目標を達成した) B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが 一定の進捗があった) C. 進捗が遅れた (現状を下回るものが多くあった) D. 進捗は大幅に遅れた (現状を大幅に下回った)	B

5 今後の方向性			
今後の 事業構成の 妥当性 (手段は妥当か?)	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
		I. 効果的な事業構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な事業構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 事業構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	II

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40801010	市民スポーツ推進事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	257000	市民文化局市民スポーツ室							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—		参加・協働の場	政策推進計画等(策定・進行管理)				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等)								
総合計画と連携する計画等	スポーツ基本法 スポーツ推進計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
	3(4) 地域人材の発掘・育成			1 スポーツ大会を通じたボランティア人材の育成					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	事業費 A	19,007	18,622	18,360	18,086	25,212	75,420	68,654	
	財源内訳	国庫支出金	0	-	0	-	0	6,295	-
		市債	0	-	0	-	0	0	-
		その他特財	1,000	-	990	-	990	5,058	-
		一般財源	18,007	-	17,370	-	24,222	64,067	-
人件費※ B			31,206	31,206	39,520	39,520	39,520		
総コスト(A+B)			49,566	49,292	64,732	114,940	108,174		
人工(単位:人)			3.68			4.75			

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	スポーツ・文化芸術を振興する
	施策	スポーツのまちづくりの推進
	直接目標	スポーツを身近に感じ、楽しむ市民を増やす
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	スポーツを身近に感じ、楽しみたい市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	スポーツを身近に楽しむことができ、誰もが生涯にわたってスポーツを元気に楽しむことができるまちをつくります。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	市民が日頃からスポーツに接することができる機会を提供するため、スポーツ関係団体や企業等と連携し、多くの方が気軽に参加できる各種スポーツ事業、レクリエーション事業等を実施します。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①市民大会等各種スポーツ大会の開催、スポーツ体験講座の実施 ②市内の企業等が所管するスポーツ施設の開放事業の実施 ③スポーツ関係団体等と協働・連携したスポーツ活動への市民の参加促進 ・川崎市スポーツ協会・川崎市障害者スポーツ協会・川崎市レクリエーション連盟等との連携 ④スポーツ推進計画の改定	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)	⑤障害者スポーツ大会の開催、障害者スポーツ協会の運営支援、障害者スポーツ協会と連携した障害者スポーツ振興に向けた取組の推進、障害者スポーツ体験講座の実施【障害者社会参加促進事業、東京オリンピック・パラリンピック推進事業から移行】	

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①、③については、関係団体等と連携を図りながら、各種スポーツ大会やイベント等を開催しました。 ④のスポーツ推進計画については、現状分析のためのアンケートを実施し、現状の課題や施策ごとに取組を整理し、平成29年度中に改定しました。 ⑤については、障害のあるなしに関わらず、地域でスポーツが楽しめるよう、障害者スポーツ大会の開催やスポーツ教室、障害者スポーツ体験講座などに取り組みました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 活動指標	市民大会等各種スポーツ大会の開催	目標		53	53	回
	説明 市民にスポーツに親しみ機会を提供していくことは、スポーツを推進する上で重要であり、スポーツ推進計画に沿った各種スポーツ事業を維持していくことが必要のため、この指標を設定しました。	実績	53	53	53	
2 活動指標	障害者スポーツ大会の開催	目標		6	6	回
	説明 (公財)川崎市身体障害者協会の障害者スポーツ協会に委託し、市障害者スポーツ大会を開催します。	実績	6	6	6	
3 成果指標	市障害者スポーツ大会競技参加者数	目標		375	383	人
	説明 多くの障害者がスポーツに親しみ、スポーツを通じて社会参加の推進に寄与することは、障害者スポーツの普及・促進を図る上で重要であるため、この指標を設定しました。	実績	392	402	413	
4	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、市民・国民のスポーツへの関心が高まっていないほど高まっている。また国においてもスポーツ庁が設置され各種スポーツ施策の強化が打ち出されており、地方自治体においてもスポーツ施策の更なる充実を図ることが求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 29 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	平成29年度: 川崎市スポーツ推進計画について、「東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定」等社会情勢の変化に適切に対応し、関連計画との整合を図るため、計画の改定を行うこととしました。 平成29年度: 障害のあるなしに関わらず、スポーツを通じて交流ができる環境づくりなど、障害者スポーツの普及・促進を図るとともに、スポーツ施策と一体的に推進し、誰もが自分らしく混ざり合える社会に向けて取り組むこととしました。 平成24年度: 川崎市スポーツ推進計画を策定し、「スポーツのまち・かわさき」を総合的・体系的に位置付け取組を推進しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	市民スポーツを推進する上で、スポーツに親しむ機会を提供していくことは重要となります。各種スポーツ大会の開催や市内企業等の所有するスポーツ施設の市民開放の実施によりスポーツに参加する機会の提供や、スポーツを行う場の確保をしていくことが必要です。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	市民体育大会等を開催することにより、市民がスポーツに参加する機会の提供や健康増進、体力向上などにつながり、スポーツ実施率の向上に寄与しています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	評価の理由	各種スポーツ大会の実施については、スポーツ関係団体と連携して実施することで、参加者のニーズに合わせた大会の運営やコストの削減ができています。 ・民間で所有している施設の有効活用を図るため、市内の企業等の所有するスポーツ施設の開放事業を行っています。	

施策への 貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A



改善 (Action)

今後の事業の 方向性	方向性区分	実施結果 (Do) や評価 (Check) を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40801020	地域スポーツ推進事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	257000	市民文化局市民スポーツ室							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—		参加・協働の場	その他				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) スポーツ基本法、スポーツ推進委員規則								
総合計画と連携する計画等	スポーツ推進計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	13,597	13,071	12,902	12,185	12,942	13,263	12,818
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	0	-	0	-	0	0	-
		その他特財	0	-	0	-	0	0	-
	一般財源	13,597	-	12,902	-	12,942	13,263	-	
人件費* B			87,853	87,853	98,842	98,842	98,842		
総コスト(A+B)			100,755	100,038	111,784	112,105	111,660		
人工(単位:人)			10.36		11.88				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	スポーツ・文化芸術を振興する
	施策	スポーツのまちづくりの推進
	直接目標	スポーツを身近に感じ、楽しむ市民を増やす
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	スポーツを通して、地域での交流等を楽しみたい市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	スポーツを通して仲間とふれあい、地域での交流を楽しめるまちづくりを進めます。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	スポーツ推進委員と連携・協力し、地域の住民・区民が参加できるスポーツ事業の開催や、総合型地域スポーツクラブの育成支援などに取り組みます。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①スポーツ推進委員による地域スポーツ活動の支援 ②同じ地域の住民が会員となって自主的に運営する総合型スポーツクラブの活動・設立支援	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 4. 目標を下回った 2. 目標を上回って達成 5. 目標を大きく下回った 3. ほぼ目標どおり
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①スポーツ推進委員と連携し、各地区で運動会やスポーツ大会の企画・運営や市民向けの体カテストを実施するなど、地域スポーツ活動を促進しました。	

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標	/			
		実績				
2	説明	目標	/			
		実績				
3	説明	目標	/			
		実績				
4	説明	目標	/			
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、市民・国民のスポーツへの関心が高まっていないほど高まっています。このような状況のなか、スポーツに参加・実践する機会として、地域におけるスポーツ活動の重要性は更に増えています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 28 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H28年度:「川崎市スポーツ推進委員連絡協議会」の活動経費について、その特性等を踏まえ、市が直接執行すべき経費と団体事業費を区分・整理を行い、団体事業費については補助金として交付するように予算執行方法の見直しを行いました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. ない b. ある	a
	評価の理由	市民がスポーツに参加する機会を提供していくうえで、地域におけるスポーツ活動は重要であり、地域スポーツにおける担い手のスポーツ推進委員や拠点としての総合型地域スポーツクラブの活動を支援していく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	スポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブなどの地域で活動する市民等と連携しながら、住民のニーズを的確に捉え、地域に根差したスポーツ活動は、市民のスポーツ実施率の上昇には必要不可欠です。こうした地域スポーツ活動の支援を継続することで、スポーツ実施率も上昇しており、成果として現れていると考えられます。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	評価の理由	スポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブの活動や運営の支援については、予算執行方法や事務手続きの見直しなど、取り組める改善は既に実施しています。	

施策への 貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A

改善 (Action)

今後の事業の 方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40801030	競技スポーツ大会開催・支援事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	257000	市民文化局市民スポーツ室							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	イベント等	—	—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) スポーツ基本法								
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン、スポーツ推進計画、シティプロモーション戦略プラン								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
	1(1) 多様な主体が共に担うまちづくりの推進			4 スポーツ大会を通じた多様な主体の連携					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	66,619	66,356	63,019	62,267	62,595	67,035	66,435
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	0	-	0	-	0	0	-
		その他特財	12,000	-	12,000	-	12,000	10,081	-
	一般財源	54,619	-	51,019	-	50,595	56,954	-	
人件費※ B			24,168	24,168	13,728	13,728	13,728		
総コスト(A+B)			87,187	86,435	76,323	80,763	80,163		
人工(単位:人)			2.85		1.65				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策 直接目標	スポーツ・文化芸術を振興する スポーツのまちづくりの推進 スポーツを身近に感じ、楽しむ市民を増やす
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	スポーツを「する、観る、支える」など、スポーツの楽しさ、魅力を市民が多様な形で享受できるようにするとともに、スポーツの持つ高い発信力、訴求力を活かして、多様な主体が連携することができるようにします。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	市民が「する、観る、支える」など、多様な形でスポーツの楽しさ魅力に触れ、多くの方が気軽に参加できる大規模スポーツ大会を実施します。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①国際陸上競技大会「ゴールドングランプリ陸上川崎大会」の開催 ②川崎国際多摩川マラソンの開催 ③多摩川リバーサイド駅伝の開催 ④国際トランポリンジャパンオープンの開催	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①の国際陸上競技大会「ゴールドングランプリ陸上川崎大会」については、世界選手権ロンドン大会の選考会の1つとして開催し、注目選手が出場したことに加え、市独自の取り組みとして、以下の内容に取り組みました。 ・市民招待を全市・中原区・中学校陸上競技部向けに細分化し実施しました。 ・大会後だけでなく、大会前にも大会出場選手の市内訪問を実施し、大会の周知を行いました。 ・市内小学生や障がい者が参加できるように、広く広報を行いサブイベントを実施しました。また、イベント参加者と保護者がそのまま大会の観戦ができるようにチケットを配布しました。 ・市政だよりでの特集記事や学校関係、官庁施設、スポーツ施設へのチラシ配布、川崎駅前のポスター掲示などに市民に広く広報しました。 開催日が県高校総体陸上大会と重なり、観客動員の中心となる高校生とその家族、指導者が来場できなかったにもかかわらず、15,200人が来場しました。 ②の川崎国際多摩川マラソンについては、交通管理者等と協議を行い、参加者の市民枠を拡大するなど、市民のスポーツ機会の拡充(総人数 590人増)に取り組みました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	国際陸上競技大会「ゴールドングランプリ陸上川崎大会」の入場者数 説明 川崎市等々力陸上競技場で開催する国内最高峰の国際陸上競技大会で、3年間の開催期間で20,000人の観客動員を目標としています。(過去に等々力陸上競技場で開催した、同大会の観客動員数が20,600人であったことから目標として設定しました。)	目標		18,000	21,000	人
		実績	16,000	23,500	15,200	
2	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	東京2020年オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、市民・国民のスポーツへの関心が高まっています。誰もがスポーツに参加し、スポーツの楽しさを味わうことができるという活動を推進する中で、本市主催のスポーツ大会では、障害のあるなしに関わらず、大会運営ボランティアとして活動をするなど、多様な主体と連携しながら取組を進めていきます。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 29 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	平成29年度:参加者の市民枠を拡大し、総人数を590人増員しました。 平成28年度:救護ボランティアをマラソン大会で8名、駅伝大会で3名導入しました。また企業ボランティアをマラソン大会で58名、駅伝大会で21名に拡充しました。 平成27年度:障害者ボランティアの導入について、マラソン大会(18名)、駅伝大会(15名)と受け入れの拡充を行いました。 平成26年度:多様な主体が連携して運営に携わる取組として、マラソン大会において、障害のある方をボランティア(14名)として大会運営に導入し、駅伝大会(12名)においてもマラソンと同様に導入しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	スポーツは、「する」だけでなく「観る、支える」活動も重要であり、競技スポーツ大会の実施により、誰もがスポーツの「する、観る、支える」活動に参加できる機会を提供していくことが必要です。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	国際陸上競技大会「ゴールデングランプリ陸上川崎大会」の入場者は目標を下回りましたが、多くの人にスポーツを「観る」機会を提供することができました。 ※下回った原因:開催日が県高校総体陸上と重なり、観客動員の中心となる高校生とその家族、指導者が来場できなかったためなどです。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	評価の理由	・各大会の開催において、設営等の民間に委託できる部分については既に実施済みです。また、委託の業務内容についても、前回の開催内容を踏まえて業務内容の見直しを開催の都度実施し、参加者の安全対策の充実を図りながら経費削減を行っています。 ・新規協賛企業の獲得によって収入を増やすなどさらなる経費削減に向けた取組が可能です。	

施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A 国際陸上競技大会「ゴールデングランプリ陸上川崎大会」および「国際トランポリンジャパンオープン」の開催により、トップレベルの競技を「観る」こと、また、「川崎国際多摩川マラソン」および「多摩川リバーサイド駅伝」の開催により、「する」だけでなく、「支える」活動として、障がいのある方のボランティアスタッフとしての交流を実施するなど、市民がスポーツに触れる機会を提供しており、スポーツのまちづくりに貢献しています。



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II 市民にスポーツを「する、観る、支える」機会を提供していくことは、スポーツの推進に重要なことであり、国際陸上競技大会「ゴールデングランプリ陸上川崎大会」の入場者数や「川崎国際多摩川マラソン」および「多摩川リバーサイド駅伝」における障害のあるボランティアスタッフの割合の増加など、一定の成果が出ています。今後、参加者の安全を考慮した警備体制・救護体制の向上や、障害者スポーツ協会と連携を図るなど改善を行いながら、事業を継続し、スポーツのまちづくりを進めていきます。

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40801040	ホームタウンスポーツ推進事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	257000	市民文化局市民スポーツ室							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	平成16年度	—	参加・協働の場	—					
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) スポーツ基本法、かわさきスポーツパートナー等設置要綱								
総合計画と連携する計画等	スポーツ推進計画、シティプロモーション戦略プラン、新・かわさき観光振興プラン								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	36,058	35,380	39,642	36,238	34,642	37,177	44,550
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	0	-	0	-	0	0	-
		その他特財	0	-	3,500	-	0	500	-
	一般財源	36,058	-	36,142	-	34,642	36,677	-	
人件費※ B			31,376	31,376	31,616	31,616	31,616		
総コスト(A+B)			71,018	67,614	66,258	68,793	76,166		
人工(単位:人)			3.7		3.8				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策 直接目標	スポーツ・文化芸術を振興する スポーツのまちづくりの推進 スポーツを身近に感じ、楽しむ市民を増やす
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民及び市を訪れる人々	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	川崎で活躍するトップアスリートと連携しながら、地域活動や地域の活力を高める取組みを推進し、スポーツを通して市民や市を訪れる人々が川崎の魅力を楽しめることのできるまちを目指します。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	認定されたかわさきスポーツパートナーや、多様な主体と協働・連携しながら、市民招待や小学校での巡回教室などハイレベルなスポーツの魅力を感じることのできる事業や、パートナーの地域貢献活動などを通じ地域を活性化させる取組みを実施します。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①かわさきスポーツパートナー等との協働・連携による本市の魅力発信 ・かわさきスポーツパートナー等によるふれあいスポーツ教室の開催(開催回数:36回以上) ・ホームゲーム等や市内で行われる公式戦の開催支援及び市民招待の実施(招待者数:670人以上) ・かわさきスポーツパートナー等による地域イベントへの参加、地域貢献活動の実施 ・市広報媒体の活用等を通じたかわさきスポーツパートナー等のPR実施 ②Jリーグクラブと連携した魅力ある地域づくりの推進 ・川崎フロンターレ後援会との連携による市民認知度向上の取組の推進 ・川崎フロンターレと連携した市制記念試合への市民招待の実施(招待者数:2,000人) ・川崎フロンターレによる小・中学校等での巡回サッカー教室の実施(開催回数:120回以上) ・川崎フロンターレによる地域イベントへの参加、地域貢献活動の実施 ③アメリカンフットボールを活用したまちづくりの推進 ・「アメリカンフットボールを活用したまちづくり連絡調整会議」との連携による市民認知度向上の取組の推進 ・競技普及を目的とした選手やチアリーダーの地域イベントへの参加 ・「アメフト×商店街」など、商店街と協働して行うイベントの実施 ・Jリーグ等の公式戦への市民招待の実施(招待者数:1,200人以上) ・フラグフットボール等の普及に向けた巡回教室、大会の開催	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等により具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	ほぼ目標どおり達成できました。 ①については、かわさきスポーツパートナーの優勝時には様々な関係者と迅速に調整を行い、市民へ広く周知するイベントを適宜実施しました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 活動指標	かわさきスポーツパートナー等によるふれあいスポーツ教室の開催	目標		36	36	回
	説明 子どもたちにスポーツの楽しさや素晴らしさを感じてもらうため、かわさきスポーツパートナー等が小学校などに出向き、選手と子どもが直接ふれあう機会の創出します	実績	32	33	34	

2	成果指標	かわさきスポーツパートナーによる市民招待の実施			目標	670	670	人
		説明	スポーツ観戦の臨場感・高揚感を味わう機会を提供するため、市民をかわさきスポーツパートナーの公式試合に招待します。		実績	688	779	
3	成果指標	川崎フロンターレと連携した市制記念試合への市民招待の実施			目標	2,000	2,000	人
		説明	市制記念日前後に開催される川崎フロンターレのホームゲームを「川崎市制記念試合」とし、市民招待を行います。		実績	2,000	2,000	
4	活動指標	川崎フロンターレによる小・中学校等での巡回サッカー教室の実施			目標	120	120	回
		説明	「川崎フロンターレ」コーナ陣による小学校・中学校の授業と部活動を対象とした巡回型ふれあい教室。年度始めに全校を対象に実施希望を募り、その後日程調整して教室を実施します。		実績	118	124	
5	成果指標	アメリカンフットボール公式戦への市民招待の実施			目標	1,200	1,200	人
		説明	川崎市を拠点をして数多くの試合が行われているアメリカンフットボールの迫力を間近で感じてもらうため、アメリカンフットボールの公式戦に市民を招待します。		実績	910	1,166	

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機とした、スポーツ推進に向けた機運をさらに高めていくためにも、継続してスポーツを活用したまちづくりに取組んでいくことが求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 28 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H28年度: アメリカンフットボール・フラッグフットボールを活用したまちづくりの推進において、広告方法等を見直し、経費を削減しました。 H26年度: アメリカンフットボール・フラッグフットボールを活用したまちづくりの推進において、フラッグの巡回指導回数を見直し、経費を削減しました。 H25年度: 認定要件を明確にし名称をより親しみやすくすることを目的に、「川崎市ホームタウンスポーツ推進パートナー」から「かわさきスポーツパートナー」へ名称を変更しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. ない b. ある	a
評価の理由	・川崎フロンターレの初優勝や富士通フロンティアーズのライスボウル連覇など、今後もかわさきスポーツパートナーの活躍が期待される状況であり、連携・協働することでスポーツのまちづくりを更に推進できる状況であることから、引き続き行政が積極的に関わっていく必要があります。		
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	・活動実績は概ね目標値を達成している状況であり、事業内容に応じて地域団体で構成されている実行委員会や専門知識を有する組織等に委託することで、地域の意見やニーズを反映させた事業が進められ、成果を高めることができています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
評価の理由	・既に外部活用が可能な事業については事業委託を実施していますが、引き続き仕様内容を見直すことによる事業内容の魅力向上など、更なる改善の可能性がります。		

施策への 貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A ふれあい教室や巡回サッカー教室、スポーツパートナーと連携したボールゲームフェスタの開催や市民招待などをほぼ順調に実施できたこと、また、アメリカンフットボールの事業では、小学生をはじめとしたファミリー層をターゲットにすることにより、富士通スタジアム川崎に新たなファンを開拓して地域を活性化させたこと、また、フロンターレをはじめ、適宜優勝イベントを実施して市民がまちへの愛着心を高めることにつなげることができたことから、スポーツのまちづくりの推進に貢献しました。

改善 (Action)

今後の事業の 方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I 各種目で国内トップレベルの成績を収めているかわさきスポーツパートナーを更に活用できるよう、今後もかわさきスポーツパートナーや地域団体等と協働・連携しながら事業を実施し、スポーツを通じて川崎の魅力を実感することができるまちづくりを推進していきます。

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40801050	スポーツセンター等管理運営事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	257000	市民文化局市民スポーツ室							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	施設の管理・運営	—					
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等)								
総合計画と連携する計画等	スポーツ基本法、川崎市とどろきアリーナ条例、川崎市スポーツセンター条例、川崎市武道館条例								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目				課題名				
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	事業費 A	736,223	726,080	907,454	799,614	776,053	619,996	608,429	
	財源内訳	国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	33,000	-	261,000	-	97,000	2,000	-
		その他特財	71	-	71	-	71	68	-
		一般財源	703,152	-	646,383	-	678,982	617,928	-
人件費※ B			35,616	35,616	86,861	86,861	86,861		
総コスト(A+B)			943,070	835,230	862,914	706,857	695,290		
人工(単位:人)			4.2		10.44				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策 直接目標	スポーツ・文化芸術を振興する スポーツのまちづくりの推進 スポーツを身近に感じ、楽しむ市民を増やす
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	スポーツセンター等を利用する市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	市民の心身の健全な発達やスポーツの普及に向け、スポーツセンター等の運営を通じて、身近な場所でスポーツに親しめる環境を作ります。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	運営に関しては指定管理者制度を導入し、公平で平等な利用を確保するとともに、費用対効果にも留意し、公共性と効率性を両立していきます。 施設によっては経年による劣化が出ており、長寿命化に向けた計画的な保守、整備を行います。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①スポーツセンター等の体育室・トレーニング室などの利用提供の推進 ②生涯スポーツの推進に向けたスポーツ教室及びイベント等の実施 ③施設の長寿命化に向けた修繕計画に基づく工事の実施	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)	④屋内スポーツ施設のバリアフリー化の推進【新規】	

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ③については、麻生スポーツセンターのESCO(Energy Service Company事業)事業者による工事の実施に向けて、事業者を募集、選定し、平成30年度からの工事実施の準備を行いました。 ④については、とどろきアリーナ、高津スポーツセンター、市武道館の屋内スポーツ施設のバリアフリー化工事を実施しました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	スポーツセンター等施設利用者数	目標		2,465,000	2,630,000	人
	説明 スポーツセンター等施設の1年間の利用者数の推移によって、市民がスポーツ親しむ環境づくりの取組成果を測ります。	実績	2,454,647	2,599,156	2,810,072	
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、本市では「かわさきパラムーブメント推進ビジョン」を策定し、障害者スポーツの推進、スポーツ施設のバリアフリー化が求められています。かわさき資産マネジメントカルテに基づき、施設の長寿命化に向け、計画的な修繕・更新が必要となっています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 29 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H29年度: 使用料・手数料の設定基準に基づき、受益と負担の適正化を図るため、利用料金の改定を行いました。 H28年度: トレーニング室の利用方法を変更し、利用時間制を導入しました。 H26年度: 大体育室等の利用時間の区分を一日3区分から4区分に見直しました。 H18年度: 施設の運営に指定管理者制度を導入しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、スポーツに関する注目度は年々増加しています。市民が身近にスポーツに親しめる環境づくりのため、スポーツセンター等を維持していくことが、さらに重要となります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	指定管理者制度を導入以降、スポーツセンター等の利用者数は年々増加しています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	評価の理由	指定管理者制度を導入し、市の支出を削減しながらも、民間活力により、直営時代よりもサービスの質を向上させることができている。また、ESCO事業を導入することで、施設の長寿命化に係る経費削減の可能性がります。	

施策への 貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A



改善 (Action)

今後の事業 の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40801060	スポーツ・文化総合センター整備・運営事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	251300	市民文化局市民生活部企画課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	平成39年度	施設の管理・運営	—					
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律								
総合計画と連携する計画等	まち・ひと・しごと創生総合戦略、都市計画マスタープラン、スポーツ推進計画、文化芸術振興計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	8,984	7,329	6,467	6,272	14,195,087	14,058,035	14,192,529
		国庫支出金	0	-	0	-	252,896	499,554	-
		市債	0	-	0	-	10,197,000	13,212,000	-
		その他特財	325	-	328	-	328	348	-
	一般財源	8,659	-	6,139	-	3,744,863	346,133	-	
人件費※ B			12,296	12,296	12,064	12,064	12,064		
総コスト(A+B)			18,763	18,568	14,207,151	14,070,099	14,204,593		
人工(単位:人)			1.45		1.45				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策 直接目標	スポーツ・文化芸術を振興する スポーツのまちづくりの推進 スポーツを身近に感じ、楽しむ市民を増やす
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	富士見地区、市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	富士見公園の総合公園としての機能回復や、スポーツ・文化・レクリエーション活動の拠点機能の強化を図ります。市民のスポーツ活動及び文化活動の振興を図ります。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	スポーツ・文化・レクリエーション活動拠点の強化を図るため、富士見周辺地区整備実施計画に基づき、川崎市体育館、児童プール及びテニスコート2面の敷地に、PFI手法によりスポーツ・文化総合センターを整備します。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①スポーツ・文化総合センターの完成・供用開始	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①のスポーツ・文化総合センターの完成・供用開始について、計画した工程のとおり建物竣工し、オープンしました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標				
		実績				
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	スポーツや文化活動等の市民の諸活動への対応は、ハード、ソフト共にニーズの高い事項であり、市民の活動・発表の場が求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 29 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H29年度: 専門的見地からの支援業務範囲を音響関係に限定し、委託料を削減しました。 H28年度: 事業進捗に伴い、専門的見地からの支援業務を限定し、更なる仕様書の見直しを行い委託料を削減しました。 H27年度: PFI事業について専門的見地から支援を受ける委託業務について、仕様書を見直し委託料を削減しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	スポーツ、文化、レクリエーション活動等、市民の活動拠点の強化は、今後も求められており、2020年のオリンピック・パラリンピックに向けても、スポーツ及び文化のさらなる振興を図る必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	a
	評価の理由	計画から遅れることなく、竣工・オープンを迎えることができ、計画に沿った事業を実施しました。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	本事業はPFI手法を導入し、民間活力を活用して実施しています。維持管理運営を行う中で、適正なモニタリング等を通じて、より質の高い市民サービスの提供を行っていく必要があります。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	計画どおり事業が進捗し、様々なスポーツ、文化事業を実施していることから、スポーツ、文化の振興に貢献しています。



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II	富士見周辺地区整備実施計画やスポーツ・文化複合施設基本計画等に基づきPFI手法を導入して取り組んでいる事業であるため、各計画等に沿って、着実に事業を推進しつつ、サービスの質の向上を図っていく必要があります。 ※来年度以降、本事業はスポーツセンター等管理運営事業で実施していきます。

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40801070	東京オリンピック・パラリンピック推進事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	257500	市民文化局オリンピック・パラリンピック推進室							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	平成25年度	—	その他	その他	政策推進計画等(策定・進行管理)				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度								
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン、まち・ひと・しごと創生総合戦略、スポーツ推進計画、かわさきパラムーブメント推進ビジョン								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	事業費 A	3,000	4,030	50,000	43,080	50,000	59,809	57,714	
	財源内訳	国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	0	-	0	-	0	0	-
		その他特財	0	-	0	-	0	0	-
		一般財源	3,000	-	50,000	-	50,000	59,809	-
人件費* B			28,832	28,832	61,568	61,568	61,568		
総コスト(A+B)			78,832	71,912	111,568	121,377	119,282		
人工(単位:人)			3.4		7.4				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	スポーツ・文化芸術を振興する
	施策	スポーツのまちづくりの推進
	直接目標	スポーツを身近に感じ、楽しむ市民を増やす
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民・企業・団体	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた本市の基本方向である「かわさきパラムーブメント」を推進し、東京大会を契機とした誰もが暮らしやすいまちづくりを進めます。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	「かわさきパラムーブメント推進ビジョン」で掲げる5つの方向性(「ひとづくり」「スポーツ振興・健康づくり」「まちづくり」「都市の魅力向上」「先進的な課題解決モデルの発信」)に沿った取組を市民協働で推進します。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①第1期かわさきパラムーブメント推進ビジョンに基づく取組の推進と第2期ビジョンの策定 ②JOCパートナー都市協定に基づく取組の推進 ③事前キャンプの受け入れに向けた取組の推進 ④「かわさきパラムーブメント推進フォーラム」の運営と多様な主体の連携によるプロジェクトの企画実施 ⑤大会開催とその後のまちづくりに向けた多言語対応などさまざまな分野における取組の調整	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)	④障害者スポーツ体験講座【市民スポーツ推進事業へ移行】	

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①について、各局区の取組として総合計画実施計画の事務事業ベースで66事業、ビジョンとして102事業の取組を推進し、さらに、かわさきパラムーブメントの理念浸透に向けて、戦略的な広報に基づきロゴやステートメント、動画、グッズを作成するとともに、推進イベントを開催し、延べ2万人の参加がありました。また、かわさきパラムーブメント第1期推進ビジョンの見直しを図り、目指すもの、理念、レガシーを明確にし、さらにそのレガシーを19から9へと整理した第2期推進ビジョンを策定しました。 ②について、JOC協定に基づき環境セミナーを実施しました。また、市内中学校を対象としてオリンピック教室を2回開催しました。 ③について、各関係者と協議を重ね、事前キャンプ受け入れに向けた施設整備や準備を進めました。また、本市は英国ホストタウンとして位置づけられているため、その取組およびパラムーブメントの取組をより一層推進し、本市におけるパラリンピックに向けた機運を醸成するとともに、共生社会の実現に向けた、意識を変えていくきっかけとして活用するために共生社会ホストタウンへの応募を行いました。 ④について、推進フォーラムを3回開催し、リーディングプロジェクトとして市内飲食店のバリアフリー調査やセミナーを開催したほか、インクルーシブなかわさきハロウインの支援等を実施しました。 ⑤については、各分野において所管部署と調整を行い、レガシーとして第2期推進ビジョン素案に反映させました。						
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位	
1	活動指標	JOCと連携した事業の各区での実施回数	目標	/	1	2	回
		説明	JOCから派遣されるオリンピアンを講師としたJOCオリンピック教室の中学校での実施回数	実績	-	1	
2	活動指標	かわさきパラムーブメント推進フォーラムの開催回数	目標	/	3	3	回
		説明	市民、団体、企業等の様々な関係者とかわさきパラムーブメントを創りだすための協働・連携のとしての会議の実施回数	実績	-	3	

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	平成32年(2020年)の東京大会に向けた機運の高まりや、大会組織委員会、JOC、九都県市等の動向を踏まえ、かわさきパラムーブメント推進ビジョンに掲げる各分野の取組を段階的に拡充・進化させていくことが必要となります。
事業の見直し・改善内容	<input type="checkbox"/> 実施 (直近) H 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	東京2020大会を契機として誰もが自分らしく暮らし、自己実現を目指せる地域づくりを目指しているかわさきパラムーブメントの理念を浸透させ、より大きなうねりとして市内全域に広めていく必要があることから、多様な主体と連携をしながら継続的に行政が関わっていく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	活動指標も目標値も達成しています。今後は、新たに策定したかわさきパラムーブメント第2期推進ビジョンに基づき、市民や関係団体などの多様な主体の協働・連携によるパラムーブメントの推進を図っていきます。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	かわさきパラムーブメント推進や英国事前キャンプの準備について、多岐にわたる分野の事業を着実に実施するとともに、突発的な調整事項に対して、的確に対応していくことが求められることから、一定の人員及び財源が必要になります。	

施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A 東京2020大会を契機とした、推進フォーラムによるリーディングプロジェクトやロゴを活用したプロモーション活動などにより、かわさきパラムーブメントの理念の浸透を図り、施策に貢献しました。



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	III かわさきパラムーブメント第2期推進ビジョンの策定に伴い、ビジョンに基づいた取組を推進していきます。市民の方々がゲストではなくキャストとして主体的に取組に参加していくことで、ムーブメントがより大きなうねりとして市内全域に広まることから、市民活動を創発するための取組を拡充し、様々な主体の協働・連携によるパラムーブメントの推進を図ります。また、ロゴやイベントを通じて、多様な主体の参加を得ながらパラムーブメントの考え方を広く市民や事業者に向けて発信し、引き続き理念浸透を図っていきます。また、英国オリンピック・パラリンピック代表チームの事前キャンプの受入れ準備のために、施設の整備や関係機関との協議等を行うとともに、英国を相手国とするホスタウンの取組として、英国との交流やおもてなし事業を進めます。

施策評価シート(第1期実施計画 総括評価)

1 施策の概要					
政策体系上の位置づけ	基本政策(1層)	活力と魅力あふれる力強い都市づくり			
	政策(2層)	スポーツ・文化芸術を振興する	計画当初値(H27年)	直近実績値(H29年)	最終目標値(H37年)
	市民実感指標	① スポーツの盛んなまちだと思ふ市民の割合 ② 文化・芸術活動の盛んなまちだと思ふ市民の割合	47.6% 48.0%	55.1% 47.4%	55.0% 55.0%
施策(3層)	施策コード	施策名			
	40802000	市民の文化芸術活動の振興			
担当	組織コード	所 属 名			
	258000	市民文化局市民文化振興室			
関係課	市民文化局市民生活部企画課、教育委員会事務局生涯学習部文化財課				
施策の概要	<p>●誰もが手軽に文化芸術にふれ、多くの市民が文化芸術の楽しさを感じることができるよう、市民が文化芸術活動に参加しやすい環境づくりを進めるとともに、市民、文化団体等の多様な主体と協働・連携しながら文化芸術活動の振興を図ります。</p> <p>●市民の郷土に対する認識を高め、貴重な文化財を次世代に継承していくため、その保護と活用に取り組むとともに、文化財に関する学習機会の充実や多様な主体との連携による文化財の魅力を活かした地域づくりを進めます。</p> <p>●アートセンターをはじめ、文化芸術の創造や地域の文化芸術活動の拠点となる文化施設において、市民が身近に文化芸術を体験できるよう、各種公演の実施や作品等の展示をするとともに、文化芸術活動を通じた市民相互の交流を進めます。</p>				
直接目標	市内の文化芸術活動を推進し、一層市民に身近なものにする				

2 成果指標やその他成果などの状況と成果の分析								
実施計画に位置付けた指標名(指標の説明)			現状値(年度)	目標・実績	H28年度	H29年度	単位等	
成果指標	1	主要文化施設の入場者数	126.9	目標値(a) 実績値(b)	132.7 128.6	135.6 137.8	万人	
		指標の説明 主要文化施設(8か所)における入場者数の実績報告の合計値	H26	達成率(b/a) 指標達成度 ※1	96.9% b	101.6% a	↗ 増減	
	2	年1回以上文化芸術活動をする人の割合	14.6	目標値(a) 実績値(b)	15 12.8	16 14.5	%	
		指標の説明 市民アンケート(無作為抽出3,000人)の年1回以上文化芸術活動をする人の割合	H27	達成率(b/a) 指標達成度 ※1	85.3% c	90.6% c	↗ 増減	
3	指標の説明		目標値(a) 実績値(b) 達成率(b/a) 指標達成度 ※1					
4	指標の説明		目標値(a) 実績値(b) 達成率(b/a) 指標達成度 ※1					
数値で把握できる補足指標(指標の説明)				実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	川崎・しんゆり芸術祭の参加者数			実績	26,550	26,700	27,500	人
	指標の説明 川崎・しんゆり芸術祭への参加者数の総計							
2	かわさき市民第九コンサートの参加者数			実績	2,112	2,022	2,087	人
	指標の説明 市民合唱団とコンサート入場者数の合計							
定性的な成果 (取組を進めたことで発現した数値では測れない効果などについて記載)		<p>●川崎・しんゆり芸術祭やかわさき市民第九コンサートでは参加者数がいずれも平成28年度を上回るなど、文化芸術活動における市民や文化団体等の多様な主体との協働・連携が促進されています。</p> <p>●文化財保護・活用事業では、文化財指定制度を補完する新たな制度として平成29年度に「川崎市地域文化財顕彰制度」を創設するなど、未指定を含めた文化財のさらなる活用と市民の理解の促進が図られています。</p> <p>●このほか、文化芸術振興や文化施設事業として子どもや高齢者を対象としたイベントを実施したり、平成29年度からは障害のある方による文化芸術活動を支援する事業を新規に実施するなど、誰もが文化芸術活動に取り組める環境づくりが進んでいます。</p>						
指標等の成果分析 (指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載)		<p>●主要文化施設の入場者数は目標値を達成していることから、成果があったものと考えます。</p> <p>●年1回以上文化芸術活動をする人の割合は、平成29年度の達成率は90.6%で目標値を下回ったものの前年度よりも改善しており、一定の成果は得られたと考えます。性別で見ると、女性の回答率は16.6%で目標値を上回ったものの、男性の回答率は11.5%と低くなっています。また、年齢別に18歳～39歳、40歳～59歳、60歳以上の3区分で見ると、18歳～39歳は16.2%、60歳以上は16.7%とそれぞれ目標値を上回りましたが、40歳～59歳は11.9%と低くなっています。自由記入欄を見ると、消極的な回答をした人が理由として最も多く挙げているのが仕事や育児等で余裕がないことで、次いで情報やきっかけがないことが多くなっています。</p>						

※1 指標達成度の目安【 a. 目標値以上(100%以上)、b. 現状値以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～現状値未満、d. 目標達成率60%未満】

※2 指標達成度の目安【 a. 目標値以上(100%以上)、b. 個別設定値(「指標の説明」欄に記載)以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～個別設定値未満、d. 目標達成率60%未満】

3 施策を構成する主な事務事業の評価

番号	事務事業コード 事務事業名	サービス分類	事務事業の概要 (簡潔に記載)	主な取組の実績	事業費(千円)		事業の達成度	施策への貢献度	今後の事業の方向性
					予算額	決算額			
					H27年度				
					H28年度				
					H29年度(※決算額は見込)				
1	40802010 市民文化活動支援事業	参加・協働の場	市民の参加と文化芸術活動を行う団体等との協働により、誰もが手軽に文化芸術にふれ、より多くの市民が文化芸術の楽しさを楽しみ、本市に愛着と誇りを持ち、創造的に人間らしく感性豊かに暮らせる地域づくりを進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ●文化財団をはじめとする文化団体等と協働・連携した文化芸術に関する鑑賞・普及事業の実施 ●市文化賞等の贈呈 ●ラゾーナ川崎プラザソルなど各種文化施設の運営支援 ●小黒恵子童謡記念館のリニューアルオープン ●川崎・しんゆり芸術祭の開催支援及び芸術のまち・かわさき人材育成事業の実施 ●かわさき市民第九コンサート、プラチナファッションショーの開催 ●日本地名研究所と連携した地名に関する講演会及びまち歩きの実施(講義1回及び現地探訪2回) ●パラアートのモデル事業、普及啓発のシンポジウム及び交流会の開催 	527,003	643,547	3	A 貢献している	II 改善しながら継続
					485,099	468,905			
					447,294	434,327			
2	40802020 文化財保護・活用事業	その他	市民の郷土に対する認識を高め、地域の人々の心よりどころとして、文化の向上と発展に貢献するため、歴史の営みの中で、自然環境や社会・生活を反映しながら、育まれ、継承されてきた文化財の適切な保存と活用を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ●「文化財保護活用計画」に基づく文化財の調査・保護・活用事業の実施 ●「川崎市地域文化財顕彰制度」の創設 ●指定文化財の保存修理等の実施 ●文化財ボランティアの育成・確保(講座8日開催) ●埋蔵文化財の発掘調査等の実施 	43,498	38,884	3	A 貢献している	I 現状のままで継続
					46,852	46,491			
					58,284	42,965			
3	40802030 東海道かわさき宿交流館管理運営事業	施設の管理・運営	東海道川崎宿の歴史、文化を学び、後世に伝え、地域活動・地域交流の拠点として「東海道かわさき宿交流館」を運営します。	<ul style="list-style-type: none"> ●地域と連携した館の運営や企画展などの実施 ●訪日外国人を意識した取組の実施(新たな旅人の衣装の製作や記念撮影スポットの充実) 	45,660	44,630	3	A 貢献している	I 現状のままで継続
					45,689	43,960			
					45,688	43,357			
4	40802040 市民ミュージアム管理運営事業	施設の管理・運営	本市の歴史、民俗、絵画、映像等の資料や作品を収集・展示し、市民の観覧、学習・研究を進めるため、博物館と美術館の機能をあわせ持つ公立の複合文化施設として「市民ミュージアム」を運営します。	<ul style="list-style-type: none"> ●漫画・アニメ・映像・写真などの館の特徴を活かした展示会の開催 ●ホームページやSNSを活用した情報発信の更なる強化に向けた取組の推進 ●指定管理者による運営の開始 ●施設の長寿命化に向けた取組の実施 	479,497	429,846	3	A 貢献している	I 現状のままで継続
					637,013	553,006			
					485,772	448,557			
5	40802050 大山街道ふるさと館管理運営事業	施設の管理・運営	大山街道の歴史・文化を学び、文化活動を通じて、地域の交流や活性化を図るため、「大山街道ふるさと館」を運営します。	<ul style="list-style-type: none"> ●大山街道に関する歴史・民俗資料等の展示 ●街道沿道の商店と連携した「街のマイスター体験講座」の開催など大山街道の魅力を発信する取組の実施 	23,763	23,762	3	A 貢献している	I 現状のままで継続
					25,210	25,967			
					25,262	25,234			
6	40802060 市民プラザ管理運営事業	施設の管理・運営	文化・教養に関する講座や健康増進のための教室等の開催、市民相互の交流機会の促進に向け、「市民プラザ」を運営します。	<ul style="list-style-type: none"> ●文化・教養に関する教室の開催 ●プール・体育館などの利用提供 ●市民の相互の交流促進に向けた行事等の実施 ●中期修繕計画に基づく施設整備の実施 	364,440	319,878	3	B やや貢献している	I 現状のままで継続
					379,086	364,711			
					411,573	402,368			
7	40802070 橋樹官衙遺跡群保存整備・活用事業	その他	古代川崎の歴史的文化遺産を後世まで継承するため、市内で初めて国史跡に指定された「橋樹官衙遺跡群」(橋樹郡御跡と影向寺遺跡)の活用を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ●「橋樹官衙遺跡群保存活用計画」の策定 ●調査・研究・保存事業の実施 ●史跡めぐり等活用事業の実施(参加者数251人) ●市民との協働による環境整備・維持管理の実施 	186,506	187,210	3	A 貢献している	III 事業規模拡大
					11,742	9,853			
					9,301	8,481			
8	40802080 藤子・F・不二雄ミュージアム事業	施設の管理・運営	本市ゆかりの漫画家藤子・F・不二雄の作品に込められたメッセージを子どもから大人まで幅広い世代に伝えることで、文化芸術活動の振興と本市の魅力を増進するため「藤子・F・不二雄ミュージアム」を運営します。	<ul style="list-style-type: none"> ●藤子・F・不二雄の作品及び資料の展示 ●藤子・F・不二雄ミュージアムの魅力を国内外へ発信する取組の実施 ●生田緑地における他美術館と連携した取組の実施 	108,336	102,376	3	A 貢献している	I 現状のままで継続
					127,924	124,937			
					102,034	97,385			
9	40802090 岡本太郎美術館管理運営事業	施設の管理・運営	本市ゆかりの芸術家岡本太郎の美術作品や資料を展示することで、市民の美術に関する創造的活動を促進し、市民の芸術の発展と文化の進展を図るため、近現代美術を扱う美術館として、「岡本太郎美術館」を運営します。	<ul style="list-style-type: none"> ●常設展、企画展の開催及び小・中学校等団体の鑑賞学習の実施(108件) ●フォーリン・プレスセンターを活用した広報の実施(4回)、外国人向けリーフレットの配布、リーフレット英語版・フランス語版のホームページへの掲載 ●岡本太郎撮影写真資料のデジタル化及びプリント作成(62点)、北代省三関連資料の写真デジタル化の実施(1,250点) ●夏休み期間を利用した生田緑地スタンプラリーの開催(参加者数22,942人)、生田緑地サマーミュージアム等の実施 ●イベント開催時における西口広場等での飲食販売の実施、「美術館カフェ前コンサート」等の自主事業の実施、展覧会に合わせたショップ販売の実施 	194,540	191,072	3	A 貢献している	I 現状のままで継続
					225,280	201,274			
					227,274	220,292			
10	40802100 日本民家園管理運営事業	施設の管理・運営	国・県の指定文化財25件を有する日本有数の古民家の野外登録博物館として、その貴重な文化財を適切に保存・活用し、市民の文化・学術・教育の向上を図るため、「日本民家園」を運営します。	<ul style="list-style-type: none"> ●江戸時代の古民家の野外展示 ●伝統生活文化に関する企画展示及び各種講座等による教育普及事業の実施 ●50周年記念事業の実施 ●観光客の積極的誘致に向けた広報活動の充実 ●文化財建造物・民具などの保存・整備と調査研究、維持・補修 ●生田緑地における他施設と連携した取組の実施 	227,182	142,758	3	B やや貢献している	II 改善しながら継続
					300,150	253,701			
					324,966	314,081			
11	40802110 青少年科学館管理運営事業	施設の管理・運営	天文・自然・科学の3つの柱を中心に、青少年の科学知識の普及啓発や科学教育の振興のため、市唯一の自然系登録博物館として、「青少年科学館」(宙と緑の科学館)を運営します。	<ul style="list-style-type: none"> ●自然・天文・科学の3分野の資料展示 ●自然観察教室や実験教室など、体験を通じた教育普及の取組の実施 ●プラネタリウムを活用した天文知識の普及啓発の実施 ●生田緑地における他施設と連携した取組の実施 	108,022	106,067	3	B やや貢献している	I 現状のままで継続
					117,036	115,255			
					117,807	106,685			
12	40802120 アートセンター管理運営事業	施設の管理・運営	芸術文化の創造・発信・交流を促進するとともに、芸術文化の鑑賞の機会を提供することで、市民の芸術文化の発展に寄与するための創造・発信拠点として、「アートセンター」を運営します。	<ul style="list-style-type: none"> ●小劇場における公演の開催(207公演)、映像館における上映の実施(34作品1,450回) ●映像・舞台芸術をテーマとした各種ワークショップの実施(9回) ●青少年を含む市民参加型の地域劇団による公演の実施(6公演) 	149,410	148,674	3	A 貢献している	I 現状のままで継続
					148,554	149,014			
					161,815	156,577			

4 施策の達成状況

	区分	選択区分	達成状況区分を選択した理由
施策の達成状況 (指標等の成果を中心に施策を構成する事務事業の評価等から総合的に評価)	A. 順調に推移した (目標を達成した)	B	<ul style="list-style-type: none"> ●配下の事務事業の取組は、掲げた目標どおりに進捗しています。 ●主要文化施設の入場者数は目標を達成しています。 ●年1回以上文化芸術活動をする人の割合は、第1期実施計画終了時の目標値に対する達成率は90%であり、一定の成果は得られているものの目標値を下回りました。鑑賞活動以外の文化芸術活動やボランティア活動を活発化するため、活動参加を促す情報発信等をさらに進めていく必要があります。
	B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった)		
C. 進捗が遅れた (現状を下回るものが多くあった)			
D. 進捗は大幅に遅れた (現状を大幅に下回った)			

5 今後の方向性

	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
今後の事業構成の妥当性 (手段は妥当か?)	I. 効果的な事業構成である (現状のまま継続する)	II	<ul style="list-style-type: none"> ●成果指標は目標値を達成できませんでしたが、施策は一定程度進捗していることから、各事業の構成は概ね効果的であると考えます。 ●文化芸術振興や施設運営については、東京2020オリンピック・パラリンピックや市制100周年を見据え、地域資源を活用した特色ある文化芸術活動を推進するとともに、情報発信を強化していきます。また、誰もが文化芸術に親しめる環境づくりを推進するため、障害のある方による文化芸術活動の支援や、障害のある方や外国人にとってのバリアを取り除く取組の全国的な認証制度である「beyond2020プログラム」の活用等の取組を推進していきます。
	II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある)		
III. あまり効果的な事業構成でない (見直し等の余地が大きい)			
IV. 事業構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)			

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40802010	市民文化活動支援事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	258000	市民文化局市民文化振興室							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—		参加・協働の場	—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input checked="" type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 文化芸術基本法、川崎市文化芸術振興条例								
総合計画と連携する計画等	情報化推進プラン、スポーツ推進計画、文化芸術振興計画、シティプロモーション戦略プラン、新・かわさき観光振興プラン、男女平等推進行動計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	527,003	643,547	485,099	468,905	435,206	447,294	434,327
		国庫支出金	3,950	—	9,000	—	9,000	5,800	—
		市債	22,000	—	6,000	—	6,000	4,000	—
		その他特財	179,294	—	154,498	—	103,897	115,041	—
	一般財源	321,759	—	315,601	—	316,309	322,453	—	
人件費* B			49,778	49,778	61,984	61,984	61,984		
総コスト(A+B)			534,877	518,683	497,190	509,278	496,311		
人工(単位:人)			5.87		7.45				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	スポーツ・文化芸術を振興する
	施策	市民の文化芸術活動の振興
	直接目標	市内の文化芸術活動を推進し、一層市民に身近なものにする
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民や文化団体など	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	誰もが身近に文化芸術に触れ、多くの市民が文化芸術の楽しさを感じることができる状態を創出します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	市民主体の文化芸術活動への支援や、市民や文化団体等との連携・協働により実施する「川崎・しんゆり芸術祭」や「プラチナファッションショー」などの様々なイベントなどを通して、市民が文化芸術活動に参加しやすい環境づくりを進めます。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①文化財団をはじめとする文化団体等と協働・連携した文化芸術に関する鑑賞・普及事業の取組の推進 ②市文化賞等の受賞者の選考及び贈呈式の開催 ③ラゾーナ川崎プラザソルなど各種文化施設の運営支援と施設の計画的な維持・補修の実施 ④小黒恵子童謡記念館のリニューアルオープン ⑤川崎・しんゆり芸術祭(アルテリッカしんゆり)の開催支援 ⑥かわさき市民第九コンサートやプラチナファッションショーの開催 ⑦地名に関する市民講座や調査・研究の実施	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)	⑧バラアート推進事業の実施【新規】	

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①能楽体験教室や市民芸術祭等を計画通り実施し、郷土・市民劇では過去最高の来場者数をえました。 ②市文化賞等の贈呈及びスポーツで顕著な活躍のあった個人・団体に特別賞を贈呈しました。 ③ラゾーナ寄席やシネマ落語、新百合21ホールの設備改修など、計画通り実施しました。 ④平成29年4月に、「童謡文化体験の場」「地域の憩いと交流の場」としてリニューアルオープンしました。 ⑤川崎・しんゆり芸術祭の開催支援及び芸術のまち・かわさき人材育成事業を実施しました。 ⑥かわさき市民第九コンサートを実施しました。また、プラチナファッションショーを開催しました。 ⑦日本地名研究所と連携し、地名講座(講義1回及び現地探訪2回)を実施しました。 ⑧バラアートのモデル事業、普及啓発のシンポジウム及び交流会を開催しました。	

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)			目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	川崎・しんゆり芸術祭の参加者数			目標		26,600	26,600	人
	説明	川崎・しんゆり芸術祭への参加者数の総計		実績	26,550	26,700	27,500	
2 成果指標	かわさき市民第九コンサートの参加者数			目標		2,000	2,000	人
	説明	市民合唱団とコンサート入場者数の合計		実績	2,112	2,022	2,087	

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	2020東京オリンピック・パラリンピックに向け、市民や地域団体等と連携・協働した文化プログラムの展開や、その先の市制100周年以降に向けた、持続的な環境整備が求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 29 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	・平成28年度:川崎・しんゆり芸術祭において、広報戦略や広報体制を大幅に見直し、効果的に広報を実施しました。 ・平成29年度:プラチナファッションショーにおいて、専門のノウハウが必要とされる部分について民間の力を活用することにより効率的・効果的に実施しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	b
	評価の理由	2020東京オリンピック・パラリンピック以降を見据え、障害の有無に関わらず、誰もが文化芸術に触れ、楽しさを感じられるよう、市民が文化芸術活動に参加しやすい環境づくりを市民や地域団体等と連携・協働しながら進める必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	a
	評価の理由	成果指標は目標値を達成しています。現在市が直営で行っている部分について、実績を有する事業者への委託により効率的・効果的な実施が見込まれます。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	・かわさき市民第九コンサートは、市民主体で運営されている事業で、参加者や観客からも応分の負担を徴収しています。 ・パラアート推進事業は委託により民間活用をしていますが、民間がより主体的に関わることより、効率的・効果的に取り組める余地があります。	

施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A 市民主体の文化芸術活動への支援や、市民や文化団体等との連携・協働により、市内で様々な文化芸術イベント等が実施され、市民が文化芸術活動に参加しやすい環境づくりが進みました。



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II これまでの市民主体、市民や文化団体等と連携・協働した文化芸術の取組を継続するとともに、2020東京オリンピック・パラリンピック以降を見据え、引き続き、障害の有無に関わらず誰もが芸術文化に親しめる環境づくりを進めます。また、文化芸術の市民生活への更なる浸透に向けて、地域の文化芸術を活用した文化振興の取組や暮らしの中に豊かな文化芸術が薫る新たなしくみづくりの検討を進めます。

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40802020	文化財保護・活用事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	882200	教育委員会事務局生涯学習部文化財課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	その他	その他	その他				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 文化財保護法、川崎市文化財保護条例、ほか								
総合計画と連携する計画等	教育振興基本計画かわさき教育プラン第1期実施計画、文化芸術振興計画、文化財保護活用計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	事業費 A	43,498	38,884	46,852	46,491	51,714	58,284	42,965	
	財源内訳	国庫支出金	2,093	-	1,649	-	1,649	1,379	-
		市債	0	-	0	-	0	0	-
		その他特財	719	-	9,726	-	20,762	23,118	-
		一般財源	40,686	-	35,477	-	29,303	33,787	-
人件費* B			48,506	48,506	54,579	54,579	54,579		
総コスト(A+B)			95,358	94,997	106,293	112,863	97,544		
人工(単位:人)			5.72		6.56				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	スポーツ・文化芸術を振興する
	施策	市民の文化芸術活動の振興
	直接目標	市内の文化芸術活動を推進し、一層市民に身近なものにする
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民及び文化財所有者	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	文化財の適切な保存と活用により、市民文化の向上・発展に貢献します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	市民の郷土に対する認識を深め、地域の人々の心のよりどころとなるよう、文化財保護活用計画に基づき、文化財の調査・保護・活用の取組を進めます。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①「文化財保護活用計画」に基づく文化財の調査・保護・活用事業の推進 ②指定文化財の保存修理等の実施 ③文化財ボランティアの育成・確保 ④埋蔵文化財の発掘調査等の実施	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①については、文化財指定制度を補完する新たな制度として「川崎市地域文化財顕彰制度」を創設し、未指定文化財の顕彰と記録を推進する制度の運用を開始しました。 ③については、平成29年度は第2期2年目(3年間で1期修了)となる文化財ボランティア養成講座において、絵画、彫刻、史跡等幅広い分野の文化財についてボランティアとしての知識を高める講座を8日開催しました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	文化財ボランティアが参加した事業数	目標	/	15	15	日
	説明 文化財ボランティアが地域の文化財の保護・活用・調査に参加した事業数(共催事業も含む)	実績	18	46	18	
2		目標	/			
	説明	実績				
3		目標	/			
	説明	実績				
4		目標	/			
	説明	実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	文化庁による歴史文化基本構想(文化財をその周辺環境も含めて総合的に保存・活用するためのマスタープラン)の策定促進など、文化財の保護だけでなく、活用の推進が求められています。また、文部科学大臣から「文化財の確実な継承に向け、未来に先んじて必要な施策を講じるための文化財保護制度の在り方について」包括的な検討を求める諮問に対し、平成29年12月の国の文化審議会の一次答申では文化財の保存と活用に関する基本的な考え方として「これまで価値付けが明確でなかった未指定文化財も対象に含めた取組の充実」があげられています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 29 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H29年度:文化財指定制度を補完する新たな制度として「川崎市地域文化財顕彰制度」の運用を開始しました。 H25年度:文化財を活かした魅力あるまちづくりの推進のため、「川崎市文化財保護活用計画」を策定しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	超高齢化や地域コミュニティの脆弱化などの現代的な課題へのアプローチの一つとして、地域資源的価値や地域アイデンティティの源としての価値、まちづくりの中核としての価値を内包し、地域の歴史・文化への理解を促進する効果をもたらす文化財の保護・活用事業の必要性は高まっています。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	a
	評価の理由	成果指標の実績数値は前年から減じていますが、平成28年度の高い実績数値は当該年度のみ県主催事業(市が共催)にボランティアが参加したためであり、平成29年度も目標値は達成しています。また、各種活用事業や調査事業も活発に行い、文化財の保護・活用に成果を上げています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	文化財保護法・文化財保護条例に基づく公共性の強い事業であり、収益性はほぼないため、民間活用によるコスト削減の余地はありません。また、現状において、適正規模での経費・人員で可能な限りの市民サービスの提供と効率的な事務執行を行い、事業の成果を維持しています。	

施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40802030	東海道かわさき宿交流館管理運営事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	258000	市民文化局市民文化振興室							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—		施設の管理・運営	—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 文化芸術振興基本法、川崎市文化芸術振興条例、東海道かわさき宿交流館条例、東海道かわさき宿交流館条例規則								
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン、資産マネジメントカルテ、都市計画マスタープラン、文化芸術振興計画、文化財保護活用計画、シティプロモーション戦略プラン、新・かわさき観光振興プラン								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名						
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	事業費 A	45,660	44,630	45,689	43,960	45,689	45,688	43,357	
	財源内訳	国庫支出金	0	—	0	—	0	0	—
		市債	0	—	0	—	0	0	—
		その他特財	0	—	0	—	0	0	—
		一般財源	45,660	—	45,689	—	45,689	45,688	—
人件費* B			6,021	6,021	6,323	6,323	6,323		
総コスト(A+B)			51,710	49,981	52,012	52,011	49,680		
人工(単位:人)			0.71		0.76				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策 直接目標	スポーツ・文化芸術を振興する 市民の文化芸術活動の振興 市内の文化芸術活動を推進し、一層市民に身近なものにする
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	東海道川崎宿の歴史、文化を学び、後世に伝え、地域活動・地域交流を推進することで、文化芸術活動を通じた市民相互の交流を進めます。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	指定管理者による効率的・効果的な運営により東海道川崎宿に関する展示などの事業を実施するほか、市民の文化活動や交流の場を提供します。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①東海道川崎宿の歴史・民俗資料等の展示 ②東海道川崎宿に関する地域活動の支援や地域交流拠点としての取組の推進	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①②地域と連携した館の運営や企画展、その他事業などの実施により昨年度以上の来館者がありました。また、訪日外国人を意識して、新たな旅人の衣装を製作するとともに記念撮影スポットの充実を図りました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	年間利用者数	目標	/	50,000	50,000	人
	説明 4月から翌年3月までの貸館利用者を含めた利用者数	実績	50,857	47,120	50,047	
2		目標	/			
	説明	実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催決定に伴い、川崎の歴史・文化を伝える施設として、海外からの利用者増が見込まれます。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 25 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	平成25年度:開館当初から指定管理者制度を導入しています。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	近年では、歴史を学びながら東海道沿道を歩く人が増えており、今後は、2020年へ向けて、外国人客などを含め、ますます川崎の歴史文化を学べる交流拠点としての必要性は高まってくると思います。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	新規企画展やその他事業について、積極的に実施をする事で、リピーター確保を図っており、類似施設よりも多い約5万人の来館者数を確保しています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	評価の理由	既に、指定管理者制度による民間活用のメリットを生かしたコスト削減を最大限図っています。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	開館以降、安定した来館者数を推移しており、市民の文化芸術活動の振興に寄与しています。



改善 (Action)

方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	運営委員会等をととして地域の声を取り入れながら、地域の文化交流、東海道川崎宿の歴史文化の発信等の拠点として施設の機能充実を図ってまいりました。今後も、施設の安定した運営のため、現在の業務内容を維持していきます。

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40802040	市民ミュージアム管理運営事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	258000	市民文化局市民文化振興室							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	施設の管理・運営	—					
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 川崎市市民ミュージアム条例								
総合計画と連携する計画等	資産マネジメントカルテ、情報化推進プラン、文化芸術振興計画、文化財保護活用計画、川崎市市民ミュージアム新たな取組方針								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
	1(4) 市民サービス向上に向けた民間部門の活用			4 市民ミュージアムにおける指定管理者制度の導入					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	479,497	429,846	637,013	553,006	637,013	485,772	448,557
		国庫支出金	0	—	0	—	0	0	—
		市債	43,000	—	216,000	—	162,000	0	—
		その他特財	22,553	—	26,172	—	26,172	3,345	—
	一般財源	413,944	—	394,841	—	448,841	482,427	—	
人件費* B			65,296	65,296	4,826	4,826	4,826		
総コスト(A+B)			702,309	618,302	641,839	490,598	453,383		
人工(単位:人)			7.7		0.58				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	スポーツ・文化芸術を振興する
	施策	市民の文化芸術活動の振興
	直接目標	市内の文化芸術活動を推進し、一層市民に身近なものにする
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	本市の歴史資料と美術・映像作品を扱うなど市民から親しまれる魅力ある博物館をめざすとともに、博物館と美術館の機能を併せ持つ公立の複合文化施設として、文化・芸術を活かしたまちづくりを推進することで、市民の教育、学術等に資するとともに市民相互の交流を推進することで、市民の教育、学術及び文化の発展に貢献します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	<ul style="list-style-type: none"> 考古、歴史、民俗、絵画、工芸、漫画写真、ポスター、映像等に係る実物、複製、模型等の資料及び作品の収集、保管、展示を行います。 資料等に関する講座、講演会、映写会、研究会等を開催します。 資料等に関する説明及び助言を行います。 市民の文化活動の助長、奨励及び指導を行います。 資料等に関する専門的及び技術的な調査研究並びに解説書、目録、年報調査研究報告書等の作成及び頒布を行います。 博物館、図書館、学校、研究所その他関係機関と協力し、刊行物及び情報の交換、資料等の相互貸借等を行います。 施設及び設備の利用を行います。 	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①漫画・アニメ・映像・写真など、館の特徴を活かした展覧会の開催 ②ホームページやSNSを活用した情報発信の更なる強化に向けた取組の推進 ③文化芸術人材の交流の場の形成・活動機会の創出 ④指定管理者による運営の開始 ⑤施設の長寿命化に向けた取組の推進	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①②④4月から指定管理者による運営を開始し、例年行っている展覧会のほか、多くの人に親しみやすいテーマによる企画展や川崎にゆかりのある企画展を6回開催し、年間を通じて集客の強化に向け、展覧会やワークショップ等の開催状況の様子をホームページ、SNSに発信したことで、年間総来館者数において目標を達成することができました。 ⑤日常点検を通じ、必要な修繕を適宜実施したほか、平成30年3月までに実施する必要があったハロゲン系消火設備部品交換を行いました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	年間総来館者数	目標		191,000	201,000	人
	説明 様々な事業を実施することから年間総来館者数を指標とすることで成果を測ることができる。	実績	177,176	181,910	282,211	
2	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	平成16年2月の包括外部監査において厳しい指摘を受け、平成17年度に策定した「川崎市市民ミュージアム改革基本計画」で自らがめざす姿を明確にし、集客と経営効率の向上をめざして数値目標を設定しました。この基本計画に基づく様々な取組を進め、平成29年度からは指定管理者制度を導入しました。年間総来館者数は一定の成果をあげましたので、引き続きさらなる魅力形成と向上を図るほか、効果的・効率的な運営を行っていきます。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 29 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	平成17年度:川崎市市民ミュージアム改革基本計画の策定しました。 平成18年度:生涯学習財団への管理委託の廃止と段階的直営化、民間館長の導入を行いました。 平成22年度:教育委員会から市長部局へ移管、川崎市市民ミュージアム改革の進捗状況と今後3年間の取組方針を策定しました。 平成25年度:川崎市市民ミュージアム新たな取組方針の策定しました。 平成27年度:指定管理者制度導入に向けた条例改正を行いました。 平成28年度:指定管理者の募集、選定、指定を行いました。 平成29年度:指定管理者による運営を開始しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. ない b. ある	b
	評価の理由	本市の歴史資料と美術・映像作品を収蔵し、博物館と美術館の機能を併せ持つ公立の複合文化施設として、文化・芸術を活かしたまちづくりを推進するため、指定管理者による効果的・効果的な運営により、適宜行政によるモニタリングを行いながら取り組んでいく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	年間総入館者数の目標値を上回ることができました。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	評価の理由	平成29年度に指定管理者制度を導入し、民間事業者による効果的・効果的な運用を行っています。	

施策への 貢献度	貢献度区分		上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	



改善 (Action)

今後の事業の 方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40802050	大山街道ふるさと館管理運営事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	258000	市民文化局市民文化振興室							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	施設の管理・運営	—					
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 文化芸術振興基本法、川崎市文化芸術振興条例、川崎市大山街道ふるさと館条例、川崎市大山街道ふるさと館条例施行規則								
総合計画と連携する計画等	資産マネジメントカルテ、都市計画マスタープラン、文化芸術振興計画、文化財保護活用計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目				課題名				
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	事業費 A	23,763	23,762	25,210	25,967	25,210	25,262	25,234	
	財源内訳	国庫支出金	0	—	0	—	0	0	—
		市債	0	—	0	—	0	0	—
		その他特財	9	—	9	—	9	9	—
		一般財源	23,754	—	25,201	—	25,201	25,253	—
人件費* B			509	509	50,669	50,669	50,669		
総コスト(A+B)			25,719	26,476	75,879	75,931	75,903		
人工(単位:人)			0.06		6.09				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	スポーツ・文化芸術を振興する
	施策	市民の文化芸術活動の振興
	直接目標	市内の文化芸術活動を推進し、一層市民に身近なものにする
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	大山街道に係る歴史、文化を学ぶとともに、学習の場を提供することにより、文化芸術活動を通じた市民相互の交流を進めます。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	指定管理者による効率的・効果的な運営により、大山街道に関する民俗等に関する資料、郷土にゆかりのある人の美術、文学等の作品等の展示を行うとともに、市民の文化活動や交流の場を提供します。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①大山街道に関する歴史・民俗資料等の展示 ②大山街道に関する地域の文化活動への支援や地域団体と連携した大山街道の魅力を発信する取組の推進	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①の常設展示について、昨年度に実施した学芸員による展示レイアウト診断の結果を踏まえ「自然展」の部分を「生活展」に展示替えを実施しました。 ②について、昨年度から開催を始めた自主事業である「街のマイスター体験講座」を継続して実施しました。さらに、伊勢原市が主催の「おおやまみち まちづくりサミット」において、歴史学習支援活動や地域活性化に係る取組みについて、基調講演を行いました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	年間利用人数	目標		41,000	43,000	人
	説明 4月から翌年3月までの貸館利用者を含めた利用人数	実績	42,918	60,328	63,499	
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	平成26年12月に川崎市と世田谷区との連携・協力に関する包括協定を締結したことにより、多摩川や街道を介した地域間の連携、交流など地域資源の活用によるにぎわいのあるまちづくりの気運が高まっています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 18 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	平成18年度: 指定管理者制度を導入しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	本施設は地域の歴史資源に関する情報発信とその活用による地域コミュニティ活性化の中心的な位置づけの施設であり、地域団体との協力や区役所事業との連携を効果的に行っていくために、引き続き行政で役割を担っていく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	成果指標について、展示室への来館者の増加により、目標値及び前年実績を上回っています。ふれあいネットの更新に伴い個人利用が可能になったことを受けて、貸館利用人数は前年比で微減しているものの、利用率は前年を上回っています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	評価の理由	指定管理者制度を活用して2期目、5年の指定管理期間中4年目にあたります。指定管理費の枠内の予算執行を堅持しつつ利用者数を伸ばし、運営の効率化が図れています。	

施策への 貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A 各種講座の開催による地域の歴史に関する学習機会の提供、企画展を通じた地域の芸術活動促進などを着実に実施しています。また、地域団体と協働したイベント開催は地元住民の交流の場となっているだけでなく、来館を通じた大山街道の歴史文化への関心喚起の機会ともなっており、施策に貢献しています。

改善 (Action)

今後の事業 の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I 講座やイベントについては利用者増等に一定の効果が出ていることから、関係する地域団体等と内容の見直しを行いつつ、継続します。 一方で貸館収入は計画値を下回っており、増収策を講じる必要があるため、利用者予約システムの更新に伴い貸館の個人利用が可能になったことを引き続き周知し、新規利用者を開拓することにより、貸館の増収を図ります。

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40802060	市民プラザ管理運営事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	251300	市民文化局市民生活部企画課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	平成24年度	—	施設の管理・運営	—					
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 川崎市民プラザ条例、川崎市民プラザ条例施行規則								
総合計画と連携する計画等	資産マネジメントカルテ、スポーツ推進計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	364,440	319,878	379,086	364,711	379,086	411,573	402,368
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	55,000	-	88,000	-	66,000	121,000	-
		その他特財	0	-	0	-	0	0	-
	一般財源	309,440	-	291,086	-	313,086	290,573	-	
人件費 [※] B			7,632	7,632	7,072	7,072	7,072		
総コスト(A+B)			386,718	372,343	386,158	418,645	409,440		
人工(単位:人)			0.9			0.85			

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	スポーツ・文化芸術を振興する
	施策	市民の文化芸術活動の振興
	直接目標	市内の文化芸術活動を推進し、一層市民に身近なものにする
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、市民で構成される団体、企業	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	市民の健康増進や文化の振興を図るとともに、市民相互の交流の機会を提供することにより、市民の福祉の向上に寄与することを目指します。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	健康増進に資する教室や文化教養に関する講座、市民相互の交流を促進するための行事等を開催するとともに、多目的に利用可能な施設・設備の貸し出しを行います。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①文化・教養に関する教室の開催 ②プール・体育館などの利用提供の推進 ③市民の相互の交流促進に向けた行事等の実施 ④中期修繕計画に基づく施設整備の実施	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	ほぼ目標どおり達成できました。 ②年間を通じ、水泳など各種スポーツ教室の開催や貸館としての体育館の利用提供を行いました。 老朽化による配管故障のため男女浴室が約1か月休業した影響はあったものの、平成27年度よりは増え、平成29年度目標値に対しても94.5%とほぼ目標どおり達成できました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	全館利用人数	目標		478,200	485,600	人
	説明 ふるさと劇場、屋内広場、会議室、練習室、茶室、ギャラリー、プール、体育館、トレーニング室、風呂、大広間、囲碁将棋室、プレイルーム、ふるさとコーナー、特別和室のいずれかの施設を教室・講座・行事・貸館等で利用した人の合計	実績	457,315	479,995	458,873	
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	老朽化の進んだ施設・設備に対して適切な維持・補修を行うことで、利用者サービス水準を維持・向上していくことが求められています。また、平成26年度末に稼働を休止した橋処理センターの解体・建替工事に伴い、蒸気の供給が停止しており、自前のボイラーの稼働を開始しています。また、同センターに隣接する立体駐車場の移設等にも今後対応していくことになります。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 28 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H28年度:浴室の混雑緩和のため、時間帯別混雑度の掲示(閑散時間帯への誘導)を開始 H27年度:体育館の利用区分を3区分から4区分に変更、トレーニング室への時間料金制導入 H24年度:(財)川崎市指定都市記念事業公社から施設の寄付を受けるに際し、指定管理者制度を導入

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	地域住民・団体・企業等にとって、余暇・ビジネス・地域住民の交流等の目的で手軽に利用できる施設として相当な稼働率を確保しており、ニーズは引き続き高い状況です。この種の施設は、よほどの立地条件等が整わない限り、純粋な民間ベースでの運営は全国的にも困難であり、本施設についても、市の事業として指定管理者制度により運営を継続することが必要です。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	立地特性上、遠方からの利用者増を見込みにくいことや、施設全体が老朽化しており故障等による稼働日数の減少による影響を受けやすい中でも利用者数を維持し、市民の健康増進・文化振興・相互交流の推進に貢献しています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	コスト削減、サービスの質の向上にむけた取組としては、指定管理者制度の導入によって一つの区切りを迎えており、現在は、仕様書などには表れない、指定管理者のノウハウを生かした細やかな運営改善を図っています。	

施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40802070	橋樹官衙遺跡群保存整備・活用事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	882200	教育委員会事務局生涯学習部文化財課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—		その他	その他				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 文化財保護法								
総合計画と連携する計画等	まち・ひと・しごと創生総合戦略、教育振興基本計画かわさき教育プラン第1期実施計画、文化芸術振興計画、文化財保護活用計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	186,506	187,210	11,742	9,853	11,742	9,301	8,481
		国庫支出金	144,267	-	4,731	-	4,731	3,135	-
		市債	31,000	-	0	-	0	0	-
		その他特財	553	-	113	-	113	113	-
		一般財源	10,686	-	6,898	-	6,898	6,053	-
人件費* B			13,398	13,398	14,893	14,893	14,893		
総コスト(A+B)			25,140	23,251	26,635	24,194	23,374		
人工(単位:人)			1.58			1.79			

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策 直接目標	スポーツ・文化芸術を振興する 市民の文化芸術活動の振興 市内の文化芸術活動を推進し、一層市民に身近なものにする
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	市内で初めて国史跡に指定された橋樹官衙遺跡群を、市民共有の財産として保存整備・活用を図ります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	市民の橋樹官衙遺跡群への理解・認識を深めるため、保存活用計画の検討を行うとともに、史跡めぐり等活用事業を実施します。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①「橋樹官衙遺跡群保存活用計画」の策定 ②「橋樹官衙遺跡群史跡整備計画」の検討 ③調査・研究・保存事業の実施 ④史跡めぐり等活用事業の実施(参加者数:100人以上) ⑤市民との協働による環境整備・維持管理の実施	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)	④史跡めぐり等活用事業の実施(参加者数:300人以上)【変更】	

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 4. 目標を下回った 2. 目標を上回って達成 5. 目標を大きく下回った 3. ほぼ目標どおり				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	①については、有識者会議3回、庁内検討委員会2回、パブリックコメント等の意見を踏まえ、「国史跡橋樹官衙遺跡群保存活用計画」を策定しました。 ④については、史跡めぐり、発掘調査現地見学会で251人が参加し、「史跡めぐり等活用事業の参加者数」における目標値を上回る実績をあげたほか、小学校5校への出前授業の実施により15クラス約420人、市民講座等への3回の講師派遣により60人、研究会・シンポジウムでの発表で合計約200人の参加があるなど、様々な機会の活用により、橋樹官衙遺跡群への市民の理解を促進することができました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	史跡めぐり等活用事業の参加者数	目標		100	100	人
	説明 史跡めぐり等、市民の橋樹官衙遺跡群への理解・認識を深めるための事業への参加者数	実績	1,831	336	251	
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	国史跡の指定を受けたことで、史跡の保存活用のための基本的な指針(国史跡橋樹官衙遺跡群保存活用計画)の策定を行うとともに、今後の適切な保存整備に向けた「国史跡橋樹官衙遺跡群整備基本計画」の策定を行い、史跡の適切な保存管理・活用の推進を行うことが強く求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 29 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H29年度:橋樹官衙遺跡群の将来にわたる保存管理・活用等を図るため、その基本的な指針である「国史跡橋樹官衙遺跡群保存活用計画」を策定しました。 H25年度:文化財を活かした魅力あるまちづくりの推進のため、「川崎市文化財保護活用計画」を策定しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	橋樹官衙遺跡群の保存活用計画策定の検討を進める中で、地元の要望・意見を反映する必要性が高まっているとともに、市民と連携しながら史跡の保存管理や活用事業を推進することが期待されており、これまで以上に行政が果たす役割が高まっています。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	a
	評価の理由	史跡めぐり等活用事業は活発な事業展開を行って成果をあげており、これまで以上に専門職員等を活用することで、さらに事業の成果を高めることができると考えられます。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	文化財保護法・文化財保護条例に基づく公共性の強い事業であり、収益性はほぼないため、民間活用によるコスト削減の余地はありません。また、現状において、適正規模での経費・人員で可能な限りの市民サービスの提供と効率的な事務執行を行い、事業の成果を維持しています。	

施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	III

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40802080	藤子・F・不二雄ミュージアム事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	258000	市民文化局市民文化振興室							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—		施設の管理・運営	—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 文化芸術振興基本法、川崎市文化芸術振興条例、川崎市藤子・F・不二雄ミュージアム条例、川崎市藤子・F・不二雄ミュージアム条例施行規則								
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン、資産マネジメントカルテ、文化芸術振興計画、シティプロモーション戦略プラン、新・かわさき観光振興プラン								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	事業費 A	108,336	102,376	127,924	124,937	127,924	102,034	97,385	
	財源内訳	国庫支出金	0	—	0	—	0	0	—
		市債	0	—	0	—	0	0	—
		その他特財	26,127	—	44,660	—	44,660	20,432	—
		一般財源	82,209	—	83,264	—	83,264	81,602	—
人件費* B			12,211	12,211	7,405	7,405	7,405		
総コスト(A+B)			140,135	137,148	135,329	109,439	104,790		
人工(単位:人)			1.44		0.89				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策 直接目標	スポーツ・文化芸術を振興する 市民の文化芸術活動の振興 市内の文化芸術活動を推進し、一層市民に身近なものにする
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	藤子氏の作品の展示等を通じて、作品に込められたメッセージを幅広い世代へ伝えることにより、多くの市民が文化芸術に触れ、豊かでうおいのある生活と魅力あるまちづくりにつなげます。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	藤子氏の作品等の有効活用を図りながら、指定管理者による効率的・効果的な運営を行うとともに、本市の魅力を国内外へ発信する拠点として、指定管理者や関係局区等と連携を図りながら、藤子・F・不二雄ミュージアムを運営します。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①藤子・F・不二雄の作品及び資料の展示 ②藤子・F・不二雄ミュージアムの魅力を国内外へ発信する取組の推進 ③生田緑地における他美術館や博物館と連携した取組の推進	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 4. 目標を下回った 2. 目標を上回って達成 5. 目標を大きく下回った 3. ほぼ目標どおり				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	ほぼ目標どおり達成できました。 ①成果指標である入館者数は大ヒット映画「STAND BY ME ドラえもん」とコラボレーションした展示企画を行った平成26年度の入館者数をベースとしていますので、若干指標を下回っていますが、開館から6年目を迎えても引き続き多くの来館者数を維持し、開館からの累計入館者数は平成30年3月に300万人を超え、今年度の取り組むべき事業については、計画どおり達成できました。 ②外国語の音声案内ガイドの貸出数から試算すると、外国人入館者が約8万人であり、全体の入館者の2割を占め、国内だけでなく、海外にも魅力を発信できました。 ③夏休みに生田緑地4館連携スタンプラリーを実施しました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	年間入館者数	目標		474,000	474,000	人
	説明 4月から翌年3月までのミュージアム入館者数	実績	465,685	434,775	418,297	
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	外国人館者の割合が全体の約2割を占めます。さらに、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催決定に伴い、海外からの利用者増が見込まれます。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 29 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	平成29年度: 英語・中国語での利用者アンケートをとるようにしました。 平成29年度: まんがコーナーに多言語のコミックを配架しました。 平成29年度: シアターでの短編映像に英語字幕をつけました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	b
	評価の理由	入館者数は若干減少していますが、年間40万人以上の方が来館する市を代表する文化施設であり、川崎市にゆかりのある藤子・F・不二雄氏の作品の展示等を通じ、文化芸術に触れる機会を作り、国内外に本市の魅力を発信していく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	c
	評価の理由	成果指標である入館者数は大ヒット映画「STAND BY ME ドラえもん」とコラボレーションした展示企画を行った平成26年度の入館者数をベースとしていますので、若干指標を下回っています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	評価の理由	平成23年度に指定管理者制度を導入し、民間事業者による効率的・効果的な運用を行っています。	

施策への 貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A

改善 (Action)

今後の事業 の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名			実施計画の記載				
	40802090	岡本太郎美術館管理運営事業			有				
担当	所属コード	所属名							
	258000	市民文化局市民文化振興室							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	平成11年	—	施設の管理・運営	—	—				
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input checked="" type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 川崎市岡本太郎美術館条例								
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン、資産マネジメントカルテ、情報化推進プラン、文化芸術振興計画、新・かわさき観光振興プラン								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名						
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		事業費 A	194,540	191,072	225,280	201,274	225,280	227,274	220,292
	財源内訳	国庫支出金	0	—	0	—	0	0	—
		市債	0	—	30,000	—	22,000	29,000	—
		その他特財	50,363	—	50,374	—	50,374	50,421	—
		一般財源	144,177	—	144,906	—	152,906	147,853	—
	人件費* B	55,120		55,120		108,160		108,160	
総コスト(A+B)	280,400		256,394		333,440		335,434		
人工(単位:人)	6.5		6.5		13		13		

* 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 スポーツ・文化芸術を振興する 施策 市民の文化芸術活動の振興 直接目標 市内の文化芸術活動を推進し、一層市民に身近なものにする
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	美術、芸術に関する創造活動を促進し、市民の芸術及び文化の発展に寄与することを目的とします。
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	<ul style="list-style-type: none"> 岡本太郎作品と関連の近代現代美術を扱う美術館として資料の収集・保存・調査研究等に基づき、魅力ある展覧会の開催や教育普及事業の実施など美術館活動の充実に努め、市民文化の振興と個性あふれる魅力あるまちづくりにつなげます。 藤子ミュージアム、青少年科学館等の生田緑地内文化施設や地域等との効果的連携により、回遊性の向上と利用者の増加を図ります。 全国・世界に向けて岡本太郎芸術の魅力を発信します。 生田緑地の横断的管理運営を受託した指定管理者の特性を活かした、美術館及び生田緑地の魅力発信を行います。
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①岡本太郎の美術作品及び資料の展示 ②図録・資料等の外国語訳など国外への情報発信 ③他都市を巡回する岡本太郎関連の展覧会など全国に向けた情報発信 ④作品や資料のデジタル化事業の推進 ⑤生田緑地内の他施設と連携した取組の推進 ⑥美術館機能の維持・向上のための施設整備 ⑦屋外作品の維持・補修の実施 ⑧指定管理者の特性を活用した事業展開の促進
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)	

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	<p>ほぼ目標どおり達成できました。</p> <p>①常設展、企画展の開催(常設展3回、企画展4回)、小中学校等団体の鑑賞学習の実施(108件) 常設展については11月から1月末までの企画展示室天井補修工事を実施したため、例年4回実施するところ3回の実施となりました。</p> <p>②フォーリン・プレスセンターを活用した広報の実施(年4回)、外国人向けリーフレットの配布(ホテル、空港等)及びリーフレット英語版・フランス語版のホームページ掲載を実施</p> <p>③美術館連絡協議会等と連携した「岡本太郎×建築」展開催等の実施。今年度からプレス向け内覧会(3回)の実施</p> <p>④岡本太郎撮影写真資料のデジタル化、プリントの作成(62点)及び映像のデジタル化(61本)、北代省三関連資料の写真デジタル化(1,250点)の実施</p> <p>⑤夏休み期間を利用した生田緑地スタンプラリーの開催(参加者22,942人)、民家園50周年記念事業等の連携及び生田緑地サマーミュージアム等の実施</p> <p>⑥施設の長寿命化や作品保存管理、市民の施設利用の利便性の向上を図るため、施設の補修工事等を実施(企画展示室補修工事、エレベーター1号機・2号機・3号機補修工事等)</p> <p>⑦作品保護及び利用者の安全確保に寄与するために屋外作品の補修工事を実施(屋外作品「誇り」「月の顔」補修工事)</p> <p>⑧イベント開催時における西口広場での飲食販売や「美術館カフェ前コンサート」「ミニ四駆まつり」「ミニ四駆で遊ぼう」の自主事業を実施。展覧会に合わせた「フランス物産展」等ショップ販売の実施</p>					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	施設入館者数 説明 4月から翌年3月までの美術館入館者数	目標		75,000	80,000	人
		実績	72,583	75,339	73,518	

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	生田緑地の観光強化については「新・かわさき観光振興プラン」の施策に位置づけられており、周辺施設等との連携により多様な観光ニーズに応える緑地の魅力づくりに取り組む必要があります。 平成26年3月から西口園路開通により生田緑地の回遊性の向上が期待されています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 25 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H25年度:指定管理者制度を導入しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	b
	評価の理由	生田緑地の観光強化について「新・かわさき観光振興プラン」の施策に位置づけられており、「かわさきパラムーブメント推進ビジョン」に基づいた取組(バリアフリーマップの作製)も実施しています。その中で今後も市民ニーズを的確にとらえ、より多くの方々に楽しんでいただける展示会を開催していくなど、美術館の魅力発信を行っていく必要があります。民間による美術館運営は存在しますが、学芸業務については、岡本太郎が非営利の市に寄贈した経緯があり、著作権者との信頼関係、寄贈された膨大な作品・資料の適切な保存、調査研究等市が責任を持って対応する必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	企画展示室天井補修工事に伴う展示会開催数(企画展開催時における常設展の休止69日間)や閉館日数の減少(臨時休館6日間)により、成果指標(入館者数)は減少したものの、1日当たりの入館者数は昨年度並みとなっています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	施設維持管理業務等は既に指定管理者制度を導入しています。広報活動の拡充・管理運営等指定管理者の業務が安定して実施され、市直営業務もほぼ目標どおりに達成できたが、今後、開館20周年事業やオリンピック・パラリンピックに向けて市直営業務の更なる充実や指定管理者の特性を活かした事業展開の促進を図る必要があります。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	企画展示室天井補修工事に伴い、来館者数は減少したものの、1日当たりの来館者数は昨年度並みとなっており、岡本太郎作品を中心とした文化資源の活用により市民の文化・芸術活動の振興に成果を上げています。また、周辺の文化施設や近隣町会等との連携による広報やイベント等の実施により生田緑地の魅力づくりに成果を上げています。



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40802100	日本民家園管理運営事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	882200	教育委員会事務局生涯学習部文化財課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—		施設の管理・運営	その他				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 文化財保護法、博物館法、川崎市立日本民家園条例 ほか								
総合計画と連携する計画等	教育振興基本計画かわさき教育プラン第1期実施計画、文化芸術振興計画、文化財保護活用計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	事業費 A	227,182	142,758	300,150	253,701	295,408	324,966	314,081	
	財源内訳	国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	97,000	-	166,000	-	166,000	159,000	-
		その他特財	26,461	-	26,725	-	26,725	52,589	-
		一般財源	103,721	-	107,425	-	102,683	113,377	-
人件費* B			50,880	50,880	49,920	49,920	49,920		
総コスト(A+B)			351,030	304,581	345,328	374,886	364,001		
人工(単位:人)			6		6				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	スポーツ・文化芸術を振興する
	施策	市民の文化芸術活動の振興
	直接目標	市内の文化芸術活動を推進し、一層市民に身近なものにする
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	25件の文化財建造物(古民家)を適切に保存活用し、その魅力を発信します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	文化財建造物(古民家)を良好な状態で後世に伝えるための維持管理、屋根補強や耐震補強等の工事を行うとともに、展示物である古民家を活用した企画展、床公開、体験講座等の各種教育普及事業を推進し、日本民家園の魅力向上を図ります。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①江戸時代の古民家の野外展示 ②伝統生活文化に関する企画展示及び各種講座等による教育普及事業の実施 ③50周年記念事業の実施 ④観光客の積極的誘致に向けた広報活動の充実 ⑤文化財建造物・民具などの保存・整備と調査研究、維持・補修 ⑥生田緑地における他美術館や博物館と連携した取組の推進	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	7月の猛暑、10月の相次ぐ週末の台風と長雨、1月の大雪等によって年間来園者数は伸び悩みましたが、各取組についてはほぼ目標どおり達成できました。 ③については、50周年を振り返る記念企画展、式典を兼ねた芸能公演、開園以来初めての廻り舞台を使用した歌舞伎公演、古民家の旧所在地である南砺市・甲州市・福島市と連携した芸能公演や物産展、多摩区役所と連携したオペラ公演等を展開し、マスコミでも取り上げられ、多くの来場者を迎えました。 ④については、50周年に合わせて、小田急電鉄・JR東日本・シティプロモーション推進室・神奈川県国際観光課等関係各機関と連携し、市内外及び海外向けに広報活動を行いました。 ⑥については、青少年科学館と連携し、子ども向けのワークショップや「お月見デー」での夜間開園など、生田緑地内の博物館や美術館と連携を図りました。						
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位	
1	成果指標	年間来園者数	目標		125,000	138,000	人
		説明 日本民家園の年間来園者数	実績	118,887	116,053	116,772	
2			目標				
		説明	実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	平成32年度のオリンピック・パラリンピックに向けて、各施設の事業の充実とともに魅力発信が求められています。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 25 年度	<input type="checkbox"/> 未実施	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直し履歴も記載できる場合は記載	H25年度:効率的・効果的な管理運営と生田緑地のさらなる魅力発信のため、管理運営、広報業務に指定管理者制度を導入しました。		

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	b
	評価の理由	日本有数の古民家の野外博物館としての特性や専門性の充実を図り、博物館活動を推進していくこと、計画的な古民家の補修等を行い、文化財の適切な保存・活用を図ることが求められています。さらに、平成32年度のオリンピック・パラリンピックに向けて、事業の充実とともに魅力発信が求められています。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	今年度の事業内容については、開園50周年に合わせて内容を充実させております。夏の猛暑等のため目標値には及びませんが、入園者数は昨年度を上回っています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	すでに管理・広報業務に指定管理者制度を導入済みであり、成果を維持しながらの経費削減や、現状の規模における人員体制・費用でのサービス向上は困難です。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	猛暑や台風・大雪といった天候不順により伸び悩みましたが、年間入園者数は前年度を上回り、11万人を超える数値を確保しています。開園50周年を迎えて開催した数々の記念行事についても多くの来場者を迎えることができました。来園外国人の内訳もアジアを中心に広がりを見せています。これらのことから、一定程度の施策への貢献はありました。



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果 (Do) や評価 (Check) を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II 来園者の中でこれまで薄かった層へアピールするため、子ども向けワークショップを増やすなど、催し物のあり方を見直すとともに、増加する外国人来園者に対応するため、スマートフォンによる英・中・韓の4カ国語音声ガイドを導入し、インバウンド対策を強化しました。今後も主な案内板の多言語対応や、園路の整備を通してのバリアフリー化など、改善を加えながら事業を継続していきます。

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40802110	青少年科学館管理運営事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	882200	教育委員会事務局生涯学習部文化財課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—		施設の管理・運営	その他				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 博物館法、文化財保護法、川崎市青少年科学館条例 ほか								
総合計画と連携する計画等	教育振興基本計画かわさき教育プラン第1期実施計画、文化芸術振興計画、文化財保護活用計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	事業費 A	108,022	106,067	117,036	115,255	117,036	117,807	106,685	
	財源内訳	国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	0	-	0	-	0	7,000	-
		その他特財	26,723	-	27,415	-	27,415	27,398	-
		一般財源	81,299	-	89,621	-	89,621	83,409	-
人件費* B			52,576	52,576	51,584	51,584	51,584		
総コスト(A+B)			169,612	167,831	168,620	169,391	158,269		
人工(単位:人)			6.2		6.2				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	スポーツ・文化芸術を振興する
	施策	市民の文化芸術活動の振興
	直接目標	市内の文化芸術活動を推進し、一層市民に身近なものにする
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	市民の科学知識の普及啓発、科学教育の振興のため、自然・天文・科学の3つの柱を中心とした博物館事業を行います。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	自然・天文・科学3分野の資料展示、プラネタリウムを活用した天文知識の普及啓発、自然観察教室や科学実験教室等の各種展示・普及啓発事業を推進するとともに、ボランティア、市民活動団体の育成・支援を行い、館の魅力向上を図ります。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①自然・天文・科学の3分野の資料展示 ②自然観察教室や実験教室など、体験を通じた教育普及の取組の推進 ③プラネタリウムを活用した天文知識の普及啓発の実施 ④ボランティア、市民活動団体等の育成・支援 ⑤生田緑地における他美術館や博物館と連携した取組の推進	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 4. 目標を下回った 2. 目標を上回って達成 5. 目標を大きく下回った 3. ほぼ目標どおり							
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	ほぼ目標どおり達成できました。 ①年間入館者数については、台風など天候の影響により目標値を下回っていますが、平成28年度実績を上回りました。 ②については、新規講座も含め、幼児から大人まで幅広い年代に対応した様々な講座を実施しました。 ③については、子どもプラネタリウムワークショップや、専門家による天文講演会を開催しました。 ⑤については、日本民家園と連携し、子ども向けのワークショップや「お月見デー」での夜間開館など、生田緑地内の博物館や美術館と連携を図りました。								
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)				目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	年間来館者数				目標		305,000	305,000	人
	説明	青少年科学館の年間来館者数			実績	293,333	283,423	288,130	
2					目標				
	説明				実績				
3					目標				
	説明				実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	平成32年度のオリンピック・パラリンピックに向けて、各施設の事業の充実とともに魅力発信が求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 25 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H25年度:効率的・効果的な管理運営と生田緑地の更なる魅力発信のため、生田緑地及び緑地内3博物館施設の学芸業務を除く一体的管理運営、広報業務に指定管理者制度を導入しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	b
	評価の理由	市内唯一の自然科学系登録博物館として、市内及び生田緑地の自然展示、最新鋭機器によるプラネタリウム投影、各種科学実験教室、自然観察会などの内容を充実・推進するため、専門職員による継続した取組が必要です。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	毎月番組を制作し生解説するプラネタリウム一般投影や、各種科学実験教室、自然観察会などの充実が図られ、来館者の増につながっており、少しずつ成果が上がっていると考えられます。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	すでに管理運営、広報業務について指定管理制度を導入済みであり、これ以上のコスト削減、事業手法の見直しを行いながら現状のサービス水準の確保や、課題の解決を図ることや、更なるサービス・魅力向上を図ることは困難です。	

施策への 貢献度	貢献度区分		上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	入館者数は目標値に達しませんが、平成28年度実績を上回っており、展示・各種教育普及活動の充実を通じて市民の文化芸術活動の振興に寄与していることから、一定程度の施策への貢献はありました。



改善 (Action)

今後の事業の 方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	博物館業務の根幹である学芸業務は専門性・継続性を重視して、市直営により資料収集、調査研究、展示・教育普及活動の充実を図ります。また、生田緑地内の他の博物館施設及び指定管理者との連携により、生田緑地全体の魅力発信につながる事業展開・広報活動を推進します。

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40802120	アートセンター管理運営事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	258000	市民文化局市民文化振興室							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—		施設の管理・運営	—				
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 文化芸術振興基本法、劇場、音楽堂等の活性化に関する法律、川崎市文化芸術振興条例、川崎市アートセンター条例、川崎市アートセンター条例施行規則								
総合計画と連携する計画等	資産マネジメントカルテ、文化芸術振興計画、シティプロモーション戦略プラン、新・かわさき観光振興プラン、男女平等推進行動計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名						
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	事業費 A	149,410	148,674	148,554	149,014	148,554	161,815	156,577	
	財源内訳	国庫支出金	0	—	0	—	0	0	—
		市債	0	—	0	—	0	0	—
		その他特財	2	—	0	—	0	0	—
		一般財源	149,408	—	148,554	—	148,554	161,815	—
人件費* B			0	0	2,496	2,496	2,496		
総コスト(A+B)			148,554	149,014	151,050	164,311	159,073		
人工(単位:人)						0.3			

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策 直接目標	スポーツ・文化芸術を振興する 市民の文化芸術活動の振興 市内の文化芸術活動を推進し、一層市民に身近なものにする
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	芸術文化の創造、発信及び交流を促進するとともに、芸術文化の鑑賞機会を提供し、市民の芸術文化の発展に寄与します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	劇場(アルテリオ小劇場)と映像ホール(アルテリオ映像館)などの施設を活用し、芸術文化の創造・発信・交流を促進するための事業を行うとともに、情報の収集や提供、活動の支援等を行なっています。また、施設や設備を市民の利用に供し、芸術文化に係る施設や活動団体との連携を推進しています。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①小劇場や映像館を活用した芸術文化の鑑賞会等の開催 ②市民の芸術文化の創造や交流の促進に向けた各種研修やワークショップ等の実施 ③青少年の舞台芸術活動への支援の取組の推進 ④アーティストの育成・支援の取組の推進 ⑤新百合ヶ丘駅周辺の文化施設等との連携による取組の推進	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 4. 目標を下回った 2. 目標を上回って達成 5. 目標を大きく下回った 3. ほぼ目標どおり				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標通り達成できました。 ①小劇場では207回公演を開催、映像館では134作品1,450回の上映を行い、85,473人の利用がありました。 ②映像・舞台芸術をテーマとした各種ワークショップを9回実施しました。 ③④青少年の舞台芸術活動の支援については、ワークショップや稽古を重ね青少年を含む市民参加型の地域劇団により6公演実施しました。 ⑤新百合ヶ丘駅周辺の文化施設と連携し、実行委員会の事務局として「川崎・しんゆり芸術祭(アルテリッকাশんゆり)2017」を開催しました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	小劇場や映像館を活用した芸術文化の鑑賞会等の開催による利用人数	目標		83,000	83,000	人
	説明 小劇場での公演等及び映像館での映画上映事業等における利用人数	実績	78,388	87,351	85,473	
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	東京オリンピック・パラリンピック開催に伴う文化プログラムの実施にあたって、文化施設を核とした魅力発信が求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 27 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	平成19年度:開館当初から指定管理者制度を導入しています。 平成27年度:指定管理者との月1回の連絡調整会議に加え、施設管理の状況をより詳細に把握するため、平成28年1月から館長・副館長・総務担当者と市民文化室職員による月1回の定例会議を開始することでモニタリングを強化しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. ない b. ある	a
	評価の理由	東京オリンピック・パラリンピック開催に伴う文化プログラムの実施にあたって、誰もが文化芸術活動に親しめる環境づくりや、文化芸術活動による川崎の魅力発信に取り組む必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	小劇場の施設利用と映像館での映画上映事業が好調であった28年度の実績には届きませんでしたが、目標値は達成できました。引き続き指定管理者グループの強みを最大限に生かし、地域とのネットワーク等を図りながら効果的な事業を展開していく余地があります。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	評価の理由	指定管理者制度を活用し効率的な運営が行われています。	

施策への 貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A



改善 (Action)

今後の事業 の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I

施策評価シート(第1期実施計画 総括評価)

1 施策の概要					
政策体系上の位置づけ	基本政策(1層)	活力と魅力あふれる力強い都市づくり			
	政策(2層)	スポーツ・文化芸術を振興する	計画当初値(H27年)	直近実績値(H29年)	最終目標値(H37年)
	市民実感指標	① スポーツの盛んなまちだと思ふ市民の割合 ② 文化・芸術活動の盛んなまちだと思ふ市民の割合	47.6%	55.1%	55.0%
施策(3層)	施策コード	施策名			
	40803000	音楽や映像のまちづくりの推進			
担当	組織コード	所属名			
	258000	市民文化局市民文化振興室			
関係課					
施策の概要	<p>●市内には、フランチャイズオーケストラである東京交響楽団や2つの音楽大学、4つの市民オーケストラ、100を超える市民合唱団や企業の吹奏楽団などの多くの音楽資源があり、多彩な活動を行っています。市民一人ひとりが愛着と誇りを持つまちづくりとまちのイメージアップに向けて、こうした多様な主体と連携しながら「音楽のまち・かわさき」の充実を図ることで、幅広い世代の市民が音楽を楽しめる環境づくりを進めます。</p> <p>●国際的評価が高く、「音楽のまち・かわさき」の中核的施設であるミュージアム川崎シンフォニーホールでは、市民に良質な音楽の鑑賞の機会を提供するとともに、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催も見据えて、その魅力を国内外に発信することで、更なる都市イメージの向上を図ります。</p> <p>●市内には4つのシネマコンプレックスのほか、映像スタジオや日本初の映画の単科大学があり、映像制作活動が盛んです。また、ドラマや映画のロケが市内各所で行われ、「撮る・創る・観る」ための環境に恵まれた「映像のまち」です。こうした映像資源のネットワークを活かし、映像文化の振興や映像産業の発展、次世代の映像文化の担い手の育成に取り組みます。</p>				
直接目標	音楽や映像を活用して、都市の魅力向上や地域の活性化につなげる				

2 成果指標やその他成果などの状況と成果の分析								
実施計画に位置付けた指標名(指標の説明)			現状値(年度)	目標・実績	H28年度	H29年度	単位等	
成果指標	1	「音楽のまち」の環境が充実していると感じる人の割合	53.3	目標値①	54	55	%	
		指標の説明	H27	実績値②	54	51.3		%
	指標の説明	市民アンケート(無作為抽出3,000人)の「音楽のまち」の環境が充実していると感じる人(そう思う+やと思う)の割合		達成率(②/①)	100.0%	93.3%		増減
				指標達成度※1	a	c		
2	ミュージアム川崎シンフォニーホール主催・共催公演の入場者率	72	目標値①	72	73		%	
	指標の説明	H26	実績値②	73	74		%	
指標の説明	主催・共催公演の入場者数(89,159人)÷主催・共催公演の入場者定員数(120,206人)×100(%) ※H29年度実績		達成率(②/①)	101.4%	101.4%		増減	
			指標達成度※1	a	a			
3	「映像のまち」の取組を評価できる人の割合	18.4	目標値①	19	20		%	
	指標の説明	H27	実績値②	19.1	17.8		%	
指標の説明	市民アンケート(無作為抽出3,000人)の「映像のまち」の取組を知っていて、その取組を評価できると回答した人の割合		達成率(②/①)	100.5%	89.0%		増減	
			指標達成度※1	a	c			
4	指標の説明		目標値①					
			実績値②					
			達成率(②/①)					
			指標達成度※1					
数値で把握できる補足指標(指標の説明)			実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位	
1	かわさきジャズの入場者数		実績	22,918	24,954	35,745	人	
	指標の説明	かわさきジャズの入場者数						
2	指標の説明		実績					
定性的な成果 (取組を進めたことで発現した数値では測れない効果などについて記載)	<p>●かわさきジャズでは関係団体との連携強化により新規会場が加わり、イベントの魅力が増えるとともに来場者が前年度から約1万人伸びました。</p> <p>●推進体制の強化を目的として、「音楽のまち・かわさき」推進協議会事務局の川崎市文化財団への統合に向けた調整を行いました。</p> <p>●市制100周年に向けた川崎市映像アーカイブでは、市が保有する川崎市政ニュース映画を活用したアーカイブ上映会やワークショップを開催したところ、シニア世代の参加者が多く見られ、またワークショップでは世代間のコミュニケーションツールとしても有効であることがわかり、映像を活用した地域活性化に一定の効果があったものと考えます。</p>							
指標等の成果分析 (指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載)	<p>●「音楽のまち」の実感度については目標値を3.7ポイント下回っています。前年度と比較して、20代から30代までの市民の実感度が大きく下がったことが要因と考えられます。</p> <p>●「映像のまち」の取組を知っていて、評価できると回答した人の割合については、「映像のまち・かわさき」の主な取組の一つであるロケ地かわさき推進事業を通じて本市でロケを行った作品により、その年の成果指標の数値に影響を及ぼしていると考えられます。また、回答を地域別に見ると、映像のまちの取組が多く行われている川崎区、麻生区ではいずれも26.5%と高い一方、市の中部では割合が低い傾向にあります。なお、「市の取組を知らないが、取組(ドラマ等の撮影の誘致)は評価できる」と回答した人も45.3%いることから、誘致の取組自体は一定の評価を得ているものと考えます。</p>							

※1 指標達成度の目安【a. 目標値以上(100%以上)、b. 現状値以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～現状値未満、d. 目標達成率60%未満】

※2 指標達成度の目安【a. 目標値以上(100%以上)、b. 個別設定値(「指標の説明」欄に記載)以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～個別設定値未満、d. 目標達成率60%未満】

3 施策を構成する主な事務事業の評価										
番号	事務事業コード 事務事業名	サービ ス分類	事務事業の概要 (簡潔に記載)	主な取組の実績	事業費(千円)		事業の 達成度	施策へ の貢献 度	今後の 事業の 方向性	
					予算額	決算額				
					H27年度					
					H28年度					
					H29年度(※決算額は見込)					
1	40803010	参加・協 働の場	多様な活動団体等と協働・連携しながら、幅広い世代が身近に音楽を楽しめる環境づくりを進めることで、まちに音楽があふれ、市民のゆたかな心を育み、活力ある地域社会づくりを進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ●「音楽のまち・かわさき」推進協議会による情報発信(HP掲載市内音楽イベント・コンサート年間件数2,262件) ●かわさきジャズの開催(11月10日から19日、入場者数35,745人) ●アジア交流音楽祭の開催(4月22・23日、入場者数80,000人) ●プラチナ音楽祭を平成29年9月9日に実施(2,000人) ●東京交響楽団巡回公演を5回実施 ●坂本九魅力発信事業を11月14日にすくらむ21にて開催(320人) ●港町歌碑「港町十三番地」の歌碑を京浜急行電鉄と協働して適切に維持管理し魅力を発信 ●オーストリア・ザルツブルク市との交流促進に向けたコンサートを平成29年5月9日に開催(1,450人) ●リエカ市友好都市提携40周年記念コンサート平成29年11月22日に実施(1,200人) ●交流の響きの開催(9月30日、入場者数900人) 	94,420	83,984	3	A 貢献して いる	II 改善しな がら継続	
					84,900	79,207				
					81,036	81,108				
2	40803020	施設の管 理・運営	海外著名オーケストラ、東京交響楽団によるコンサートなど良質な音楽鑑賞の機会を提供することで、市民の音楽活動の振興を図るため、「ミューザ川崎シンフォニーホール」を運営します。	<ul style="list-style-type: none"> ●海外著名オーケストラ、東京交響楽団等による良質な音楽鑑賞の機会の提供(入場者数102,660人) ●多彩な事業と地域連携による音楽文化の振興と地域の活性化 ●関係部署との調整を踏まえた大規模修繕工事の設計内容決定(工期:平成31年1月15日~6月30日) 	1,185,090	1,135,149	3	A 貢献して いる	II 改善しな がら継続	
					1,061,629	1,047,185				
					1,103,863	1,070,231				
3	40803030	参加・協 働の場	「映像のまち・かわさき」推進フォーラム等と連携し、市民が映像に親しむ環境を創り、まちの魅力を発信します。	<ul style="list-style-type: none"> ●「映像のまち・かわさき」推進フォーラムの活動支援 ●かわさきPR動画コンテストの開催 ●毎日映画コンクール表彰式の本市開催支援 ●「KAWASAKI しんゆり映画祭」の開催 ●教育機関との連携による映像制作活動等を通じた映像教育の普及の推進 ●地域における映像制作活動等への支援 ●ドラマや映画などの映像作品のロケ誘致活動の実施 ●ロケ地情報のホームページによる発信やPRパネル展の開催及び情報誌の発行 ●地域映像アーカイブ化に向けた取組の実施 	36,968	36,497	3	A 貢献して いる	II 改善しな がら継続	
					34,186	33,866				
					32,808	32,784				
4										
5										

4 施策の達成状況			
施策の達成状況 (指標等の成果を中心に施策を構成する事務事業の評価等から総合的に評価)	A. 順調に推移した (目標を達成した) B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった) C. 進捗が遅れた (現状を下回るものが多かった) D. 進捗は大幅に遅れた (現状を大幅に下回った)	B	<ul style="list-style-type: none"> ●配下の事務事業の取組は、掲げた目標どおりに進捗しています。 ●「音楽のまち」の実感度については目標値を下回りましたが、アジア交流音楽祭やかわさきジャズでは、関係団体等との連携強化により入場者数が目標値を上回ったことや、プラチナ音楽祭の入場者数や東京交響楽団市内巡回コンサート開催件数はほぼ目標通りの実績となっていることから、一定の進捗があったものと考えます。 ●ミューザ川崎シンフォニーホール全体の取組は、掲げた目標どおりに進捗しています。 ●「映像のまち」の取組に関する指標については目標値を下回ったものの、「映像のまち・かわさき」推進フォーラムを構成する団体等と連携し川崎市映像アーカイブやPR動画コンテストなど新たな取組も交えながら、「映像のまち」のPRを図っており、一定の進捗はあったものと考えます。

5 今後の方向性			
	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
今後の事業構成の妥当性 (手段は妥当か?)	I. 効果的な事業構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な事業構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 事業構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	II	<ul style="list-style-type: none"> ●成果指標は目標値を達成できませんでしたが、施策は一定程度進捗していることから、各事業の構成は概ね効果的であると考えます。 ●成果目標のうち、「音楽のまち」の実感度が低くなった20代から30代への効果的なアプローチを考え、広報の手段など工夫をした展開が必要となります。協議会事務局を川崎市文化財団に平成30年度に統合し、「音楽のまち・かわさき」の推進体制を強化します。 ●ロケ情報の発信においては様々な制約はあるものの、ロケ事業者との交渉を重ね、撮影された作品の魅力をきめ細かくかつ効果的に発信する手法についてさらに検討していきます。

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名			実施計画の記載				
	40803010	音楽のまちづくり推進事業			有				
担当	所属コード	所属名							
	258000	市民文化局市民文化振興室							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	イベント等		—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度＋市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 文化芸術振興基本法、川崎市文化芸術振興条例								
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン、まち・ひと・しごと創生総合戦略、文化芸術振興計画、シティプロモーション戦略プラン、新・かわさき観光振興プラン、男女平等推進行動計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名						
	1(1)多様な主体が共に担うまちづくりの推進 3(4)地域人材の発掘・育成		5「音楽のまち・かわさき」推進協議会及び「映像のまち・かわさき」推進フォーラムの機能強化に向けた取組 2文化イベントを通じた地域人材の育成						
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	事業費 A	94,420	83,984	84,900	79,207	84,900	81,036	81,108	
	財源内訳	国庫支出金	22,875	—	20,150	—	20,150	18,200	—
		市債	0	—	0	—	0	0	—
		その他特財	0	—	440	—	440	140	—
		一般財源	71,545	—	64,310	—	64,310	62,696	—
人件費* B			27,475	27,475	22,963	22,963	22,963		
総コスト(A+B)			112,375	106,682	107,863	103,999	104,071		
人工(単位:人)			3.24			2.76			

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	スポーツ・文化芸術を振興する
	施策	音楽や映像のまちづくりの推進
	直接目標	音楽や映像を活用して、都市の魅力向上や地域の活性化につなげる
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民や文化団体など	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	幅広い世代の市民が音楽を通じて、心の豊かさを実感することや、音楽により地域社会の活力や地域ブランドが向上することで、地域に愛着と誇りを持てるようになります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	地域活性化、イメージアップを図るため、多様な活動団体と連携・協働しながら、幅広い世代の市民が身近に音楽を楽しめる環境づくりを行うとともに、魅力ある音楽事業の実施及び開催の支援を行います。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①多様な活動団体等との協働・連携に向けた「音楽のまち・かわさき」推進協議会への支援 ②「かわさきジャズ」の開催 ③「アジア交流音楽祭」の開催 ④シニア世代向け「プラチナ音楽祭」の開催 ⑤東京交響楽団による市内巡回コンサートの開催 ⑥川崎市出身の坂本九の音楽や映像を通じた魅力発信事業の実施 ⑦港町歌碑「港町十三番地」を活用した魅力発信の取組の推進 ⑧オーストリア・ザルツブルク市との若手演奏家の交流促進に向けたコンサートの開催 ⑨クワアチア・リエカ市との姉妹都市提携40周年を記念した音楽等による文化交流事業の実施	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ②出演者公募型フリーライブを去年の4会場から各区1会場ずつの7会場と増やしたことで集客が伸びました。 ③新規に1会場を追加したことで入場者数が伸びました。 ⑦京浜急行電鉄と協力し、港町駅に設置している歌碑により、年間を通じ「音楽のまち・かわさき」の魅力を発信しました。 このほか、ミュージアム川崎シンフォニーホールとの連携を強化したことにより、内容や広報を充実して「交流の響き」を開催し、昨年度よりも300人多い900人の来場がありました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	かわさきジャズの入場者数	目標		22,000	22,000	人
	説明 かわさきジャズの入場者数	実績	22,918	24,954	35,745	
2 成果指標	アジア交流音楽祭の入場者数	目標		80,000	80,000	人
	説明 アジア交流音楽祭の入場者数	実績	80,000	75,000	80,000	
3 成果指標	プラチナ音楽祭の入場者数	目標		2,000	2,000	人
	説明 プラチナ音楽祭の参加者及び観覧者の合計。	実績	2,000	2,100	2,000	
4 活動指標	東京交響楽団市内巡回コンサート開催回数	目標		5	5	回
	説明 ミューザ川崎シンフォニーホールを本拠地に活動している東京交響楽団が、児童、障害者、高齢者、病院等の各施設に出向き、良質な音楽を提供するコンサート。	実績	5	5	5	

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	音楽を活かしたまちづくりが定着する中、更なる推進や裾野の拡大に向けて、運営方法の見直しや関係機関・部署等との連携強化が求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 29 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H27年度: ①多様なコミュニティの出会いと交流の場の創出、音楽鑑賞機会の提供、地域資源活用を趣旨とした「かわさきジャズ」を初開催しました。 ②「アジア交流音楽祭」の運営体制を見直しました。 ③ブラチナ音楽祭に受益者負担を導入しました。 H28年度: 「アジア交流音楽祭」実行委員会構成団体を3団体から7団体に増やし、関係団体との連携を強化して開催しました。 H29年度: ミューザ川崎シンフォニーホールが特別共催に加わった新たな運営体制で「交流の響き」を開催しました。 H29年度: 「音楽のまち・かわさき」推進協議会事務局と川崎市文化財団の統合に向けた調整を行いました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	音楽を活かしたまちづくりが定着しつつありますが、民間も含めた多様な主体と連携しながら更なる充実を図ることにより、幅広い世代の市民が音楽を楽しめる環境づくりが進み、心豊かな活力ある地域社会の実現や都市ブランドの向上へとつながると考えています。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	成果指標は目標値を達成しています。ブラチナ音楽祭の効果をより高めるため市内団体等との連携・協働の促進が必要と考えています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	かわさきジャズについては運営体制を見直すことにより、質の向上及び効果的な開催への改善の余地があると考えます。また、ブラチナ音楽祭は更なる財源調達とコスト削減やミューザとの連携を調整するなど、検討の余地があると考えています。	

施策への 貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A

改善 (Action)

今後の事業の 方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40803020	川崎シンフォニーホール管理運営事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	258000	市民文化局市民文化振興室							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—		施設の管理・運営	—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 文化芸術振興基本法、劇場、音楽堂等の活性化に関する法律、川崎市文化芸術振興条例、川崎シンフォニーホール条例								
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン、まち・ひと・しごと創生総合戦略、資産マネジメントカルテ、文化芸術振興計画、シティプロモーション戦略プラン、新・かわさき観光振興プラン、男女平等推進行動計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名						
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	事業費 A	1,185,090	1,135,149	1,061,629	1,047,185	1,160,641	1,103,863	1,070,231	
	財源内訳	国庫支出金	0	—	0	—	0	0	—
		市債	0	—	0	—	40,000	37,000	—
		その他特財	30,846	—	35,257	—	35,257	35,676	—
		一般財源	1,154,244	—	1,026,372	—	1,085,384	1,031,187	—
人件費* B			9,328	9,328	10,400	10,400	10,400		
総コスト(A+B)			1,070,957	1,056,513	1,171,041	1,114,263	1,080,631		
人工(単位:人)			1.1		1.25				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策 直接目標	スポーツ・文化芸術を振興する 音楽や映像のまちづくりの推進 音楽や映像を活用して、都市の魅力向上や地域の活性化につなげる
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	音楽のまちづくりの中核的施設として、良質な音楽を提供するとともに、その魅力を国内外に発信することで都市イメージの向上を図ります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	海外著名オーケストラや東京交響楽団によるコンサートを開催するなど、良質な音楽の鑑賞機会の提供、市民の晴れの舞台としての演奏会の開催、音楽ホールの魅力を高め、周辺施設との連携により魅力的なまちづくりに貢献する事業を実施します。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①音楽ホールを活用したクラシックオーケストラ等による音楽の鑑賞機会の提供 ②子どもから大人までが気軽に音楽に興味を持てるコンサートの開催 ③本市のイメージアップに向けたミュージアム川崎シンフォニーホールの国内外への魅力発信 ④中長期的な修繕計画の推進 ・ホール設備等の大規模修繕の内容検討・工事設計	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①②音楽ホール公演については、主催事業ではフェスタサマーミュージアムをはじめ、クラシック音楽を中心に公演を実施し、共催事業ではフランチャイズ・オーケストラである東京交響楽団との共催である「名曲全集」を中心に公演を実施しました。その結果、ミュージアム川崎シンフォニーホール全体の入場者率・入場者数は概ね目標を達成しています。 ④来年度はシンフォニーホールの大規模修繕を予定しているためそれに伴い入場者数の目標値を検討する必要があります。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	ミュージアム川崎シンフォニーホール主催・共催公演の入場者率	目標		72	73	%
	説明 音楽ホールで行う主催・共催公演の定員数に対する入場者数の割合で、入場者が入れ替わる(入退場自由)の公演は対象から除いています。	実績	72	73	74	
2 成果指標	ミュージアム川崎シンフォニーホール主催・共催公演の入場者数	目標		100,000	100,000	人
	説明 音楽ホールで行う主催・共催公演の入場者数。	実績	99,258	97,220	102,660	
3		目標				人
	説明	実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	東京オリンピック・パラリンピック開催に伴う文化プログラムの実施にあたって、文化施設を核とした魅力発信が求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 27 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H27年度:第3期指定管理期間の仕様見直しにより指定管理料を削減するとともに、指定管理者へのモニタリングを強化しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	b
	評価の理由	良質な音楽の鑑賞機会の提供、市民の晴れの舞台としての演奏会の開催、周辺施設との連携のほか、東京オリンピック・パラリンピックに向けて音楽ホールの魅力を高める取組を引き続き行う必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	フェスタサマーミュージアムの入場者数が前年に比べ約4,000人ほど増加するなど、ミュージアムシンフォニーホールの入場者率・入場者数は順調に推移しています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	評価の理由	主催・共催事業の内容について指定管理者と協議しながら適切な実施が出来るよう検討の余地があります。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	ミュージアムシンフォニーホールは、音楽のまちづくりの中核的施設として、入場者率・入場者数が目標値を達成しており、市内の音楽文化振興に寄与しています。



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果 (Do) や評価 (Check) を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II
		ミュージアムシンフォニーホールの舞台設備等の大規模修繕を平成30、31年度に計画しているため、適正な修繕に向け関係部署との調整や、休館期間における音楽鑑賞機会の確保など、地域の文化拠点として継続した取組が必要となります。

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40803030	映像のまち・かわさき推進事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	258000	市民文化局市民文化振興室							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	イベント等	—	—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 文化芸術振興基本法、川崎市文化芸術振興条例								
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン、まち・ひと・しごと創生総合戦略、文化芸術振興計画、シティプロモーション戦略プラン、新・かわさき観光振興プラン								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	事業費 A	36,968	36,497	34,186	33,866	33,842	32,808	32,784	
	財源内訳	国庫支出金	0	—	0	—	0	0	—
		市債	0	—	0	—	0	0	—
		その他特財	3,250	—	2,665	—	2,665	2,080	—
		一般財源	33,718	—	31,521	—	31,177	30,728	—
	人件費* B			0	0	16,224	16,224	16,224	
総コスト(A+B)			34,186	33,866	50,066	49,032	49,008		
人工(単位:人)					1.95				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	スポーツ・文化芸術を振興する
	施策	音楽や映像のまちづくりの推進
	直接目標	音楽や映像を活用して、都市の魅力向上や地域の活性化につなげる
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	多くの市民が映像に親しむ環境を創り、まちの魅力を発信することで、地域に愛着と誇りを持てるようにします。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	「映像のまち・かわさき」推進フォーラム等と連携しながら、映像関連イベントや「KAWASAKIしんゆり映画祭」の開催、ロケ誘致などの取組を実施します。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①多様な映像関係主体により構成される「映像のまち・かわさき」推進フォーラムの活動支援 ②毎日映画コンクール表彰式の本市開催の支援 ③「KAWASAKIしんゆり映画祭」の開催 ④教育機関との連携による映像制作活動等を通じた映像教育の普及の推進 ⑤地域における映像制作活動等への支援 ⑥本市のイメージアップに向けたドラマや映画などの映像作品のロケ誘致活動の推進 ⑦ロケ地情報のホームページによる発信やPRパネル展の開催及び情報誌の発行 ⑧地域映像アーカイブ化に向けた取組の推進	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 4. 目標を下回った 2. 目標を上回って達成 5. 目標を大きく下回った 3. ほぼ目標どおり				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等」でより具体的に実績を示すことが出来る取組)、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	ほぼ目標どおり達成できました。 ①は「映像のまち・かわさき」で新たにかわさきPR動画コンテストを開催し206作品の応募がありました。 ③の「KAWASAKIしんゆり映画祭」は上映回数の減少により、目標来場者数には達しませんでした。 ④⑤の映像制作活動の支援は、新たな学校やワークショップでの取組を働きかけ15か所で実施されました。 ⑧フォーラムや大学との連携によるアーカイブ上映会やワークショップの開催及び支援を行いました。(15か所)					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 活動指標	ロケ支援件数	目標		170	170	件
	説明 市の施設におけるロケ件数	実績	155	117	146	
2 成果指標	「KAWASAKIしんゆり映画祭」の来場者数	目標		2,400	2,500	人
	説明 川崎市アートセンターで開催する「KAWASAKIしんゆり映画祭」の開催期間中の来場者数の合計	実績	2,445	2,532	2,127	
3		目標				
	説明	実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	地域の記録映像について、特にフィルムの経年劣化や記録媒体の目まぐるしい変化などにより失われつつあることから、本市の記録映像の収集・保存作業を行い、まちの記憶を残していくことが求められます。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 28 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H27年度:地域映像のアーカイブ化に向け、庁内資料の保有調査・実施手法の検討を行いました。 H28年度:アーカイブサイトを新たに立ち上げ、市民に対するアーカイブ映像の募集を開始しました。 H28年度:市が保有する市政ニュース映画等の映像を活用した上映会やワークショップを開催及び他の団体の開催を支援し、市民が広くアーカイブ映像に親しむ機会を提供しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	市民が映像に親しむ機会の提供、まちの魅力の発信により、都市ブランドの向上や地域活性化につながります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	c
	評価の理由	ロケ支援については、コンテンツの内容や質によりその成果が左右される傾向にあり、活動指標の数値だけでは測れない部分があります。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	「映像のまち・かわさき」推進フォーラムを構成する団体へのさらなる働きかけ・協力依頼により、市民サービスの質の向上を図る余地があります。	

施策への 貢献度	貢献度区分		上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	こどもたちの映像制作支援、ロケ支援による都市イメージの効果的な発信、アーカイブ映像を活用した地域活性化をはじめ、映像を活かした取組は幅広い場面で様々な効果が見られることから、都市の多様な魅力を構成する事業として、施策へ貢献していると考えます。



改善 (Action)

今後の事業の 方向性	方向性区分		実施結果 (Do) や評価 (Check) を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II	映像によるまちづくりの取組については、市民への周知、参加者の拡大を進める必要がありますので、関係団体の協力や理解を得て、より効果的な広報や実施内容を検討しながら事業を継続します。